

リユースの輪で子どもたちの遊びを応援！ 着替えレンタル『しゅらみい』の循環型事業

事業報告書

実施団体名 株式会社フレーベル館

2025年12月

目次

1. 対象地域の概要
2. 事業の目的
3. 事業の内容
4. 事業の実施体制
5. 事業の成果
 - 5-1. 使用済子ども服回収検証
 - 5-1-1. 回収システムと啓発活動の有効性検証（定性評価）
 - 5-1-2. 回収実績と環境負荷低減効果（定量評価）
 - 5-1-3. 参加者の意識変容と行動変化（定性評価）
 - 5-2. 遊び場における着替えレンタル有効性検証
 - 5-2-1. 遊び場における着替えレンタルの実証体験調査（定性評価）
 - 5-2-2. 衣服の準備・管理に関する現況調査（補足調査）
6. 今後の検討課題
7. 事業終了後の展開
8. 横展開へのポイント

1. 対象地域の概要

■ 主な対象地域：千葉県柏市

人口（総数）：439,210人

年少人口の割合：約12.2%

本事業では、初期段階の主要な実証フィールドとして千葉県柏市を選定。

- 強固な協力体制：柏市内に位置する学校法人くるみ学園（認定こども園くるみこども園等）と密にコミュニケーションを取りお力添えいただいております。同法人の施設を始点として市内全域の保育施設へネットワークを拡大する計画。
- 高い保育ニーズ：柏市は子育て世代が多い中核都市であり、共働き世帯の増加に伴い、着替えの準備や洗濯といった保護者の負担軽減につながる本サービスの需要が高いと見込まれる。

その他対象地域	特徴
千葉県千葉市	千葉県の県庁所在地、政令指定都市。海に面し、幕張新都心など開発拠点を持つ。
千葉県成田市	成田国際空港を擁する国際都市。歴史的な寺社（成田山新勝寺）がある。
東京都調布市	豊かな自然と都市機能が調和する、環境意識の高い街。子育て世帯に人気の高いエリア。
東京都府中市	東京都多摩地域。JRA東京競馬場やサントリー工場など大規模施設がある。
東京都文京区	東京都23区。文教地区として知られ、生産年齢人口の割合が非常に高い。
神奈川県川崎市	人口増加が続く政令指定都市であり、特に再開発エリアを中心に子育て世代が急増中。
神奈川県横浜市	神奈川県の県庁所在地。国内最大の基礎自治体であり、国際的な港町として知られる。
埼玉県さいたま市	埼玉県の県庁所在地、政令指定都市。鉄道網の要衝で、大規模な商業地域（大宮）を持つ。

（出所）柏市「住民基本台帳人口（年齢（各歳）・男女別）」（令和7年10月）

URL：<https://www.city.kashiwa.lg.jp/databunseki/shiseijoho/toukei/jinko/daichonenre.html>（最終閲覧2025年12月19日）

2. 事業の目的

「リユースの輪で子どもたちの遊びを応援！ 着替えレンタル『しゅらみい』の循環型事業」

1. 事業の背景と課題

【環境・資源の課題】

サイズアウトによる大量廃棄

成長の早い子ども服は、まだ着られる状態にもかかわらず大量に廃棄・死蔵されている現状が多くある。「手間がかからない」という理由で焼却処分されるケースも多く、CO2排出の一因となっている。

【保育・子育ての課題】

「汚れ」への懸念による体験の制限

洗濯や準備の負担から、保護者が無意識に「服を汚さないで」と制止してしまう実態がある。これにより、泥遊びや絵の具など、子どもの心身を育むダイナミックな活動が制限されていると考えられる。

2. 本事業のアプローチ

回収： 保育園や遊び場など「生活動線」の中で、不要になった子ども服を回収。

再生： プロのクリーニング技術により、清潔な「活動着」として再生。

活用： 着替えレンタルサービス「しゅらみい」として提供し、汚れても良い環境を整備。



※「しゅらみい」については次項で詳述

3. 本事業が目指す3つの成果 (公共性・公益性)

① 資源循環型社会（リユース・脱炭素）への貢献

服を循環させることで焼却廃棄を減らし、環境負荷（CO2）を低減する。

② 子どもの「主体性」と「ウェルビーイング」の向上

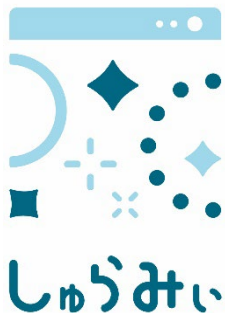
「汚れても大丈夫」という安心感が、子どもの「やってみたい！」という意欲と挑戦を支える。

③ 保護者・保育者の負担軽減と意識変容

洗濯・準備の手間を解消し、子どもと向き合う余裕を創出するとともに、リユースへの参加意識を育む。

3. 事業の内容

■着替えレンタルサービス「しゅらみい」の概要

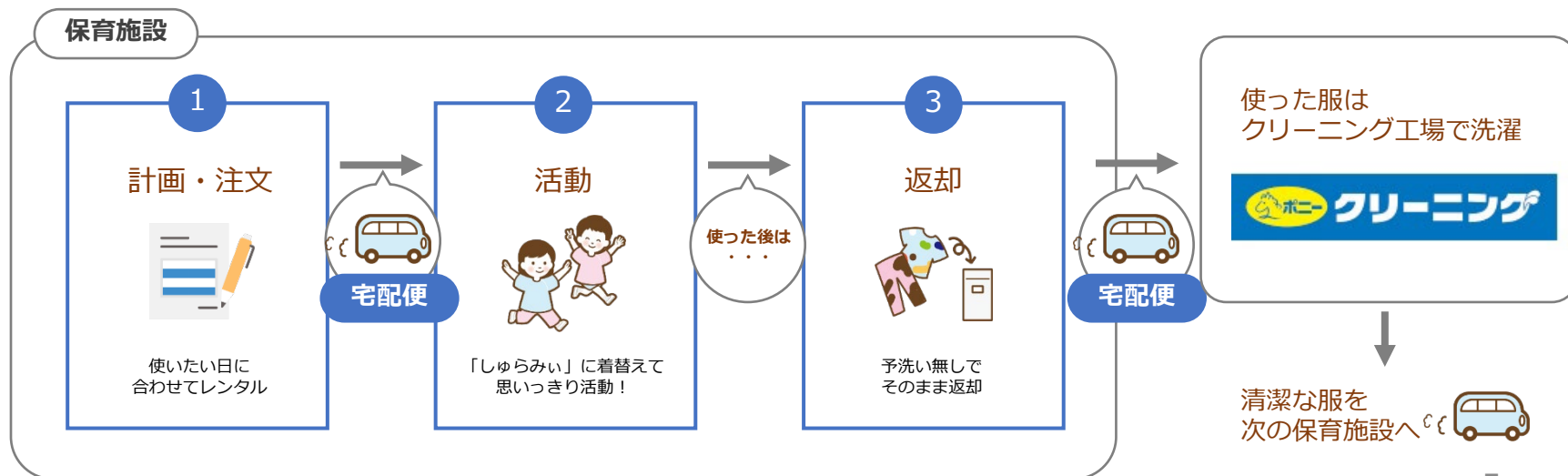


「しゅらみい」は、保育施設を対象とした

“子どもたちの活動用のお着がえ”の“スポットレンタル”サービス

- 保育施設単位で契約・納品。1セット（上下各1着）440円（税込）～で衣服をレンタル。
- 泥遊びやペイントなど、汚れが激しい活動日への活用を想定。
- レンタルにより、保護者の「準備・洗濯」と保育者の「私物管理・汚れへの配慮」を解消。そして、子どもたちが「活動を全力で楽しめる環境」を整備する。

■「しゅらみい」のサービススキーム



3. 事業の内容

■ 事業概要

本事業は、フレーベル館のお着がえレンタルサービス「しゅらみい」をリユース先の対象とし、家庭で不要になった子ども服の回収システムのモデル実証を行う。

さらに、現在「しゅらみい」が展開している保育施設以外の着替えレンタル有効性検証のため実証体験調査を実施する。



3. 事業の内容

■ 事業実施にあたる現状・課題

課題	現在・取組状況
リユース子ども服供給の不足	サービス拡大に伴い、リユース子ども服の需要が増す見込みのため、安定的な確保が課題。
サービスの展開先拡大に向けた実証の必要性	保育施設以外の他の子ども関連施設での実装可能性と最適なモデルの検証が必要。
環境貢献の“見える化”不足	子ども服リユースによる環境負荷軽減効果（CO ₂ 削減、廃棄物削減）の利用者・社会への情報発信が不十分。
持続可能な地域循環モデルの構築に向けた課題	関係機関との連携体制、廃棄物処理法等の法規制遵守、広域ネットワーク（回収・運搬・保管）の実現が未知数。

■ 事業の目標

拠点構築	回収拠点数 計13箇所
定量的算出	回収量6,000点
意識改革	リユース意識の向上（リユースへの継続参加意向） 80%以上
有効性の実証	利便性満足度（着替えレンタルの継続活用意向） 80%以上
持続・展開	事業継続ロードマップの作成（効率的な回収ルートの確立、関東圏・他施設への展開案策定）

4. 事業の実施体制

■ 各団体との役割分担・連携体制

事業者	役割	調整項目
株式会社フレーベル館	主体	事業全体の総括／リユース子ども服の回収準備・選別／サービスの運営／各連携先との全体調整／回収拠点の開拓／事業の周知活動
ゼンドラ株式会社	連携企業	「しゅらみい」での利用が難しいとされた回収「こども服の譲渡会」での頒布／譲渡会でも困難な子ども服に関するリサイクルスキームの提供
穂高株式会社 (ポニークリーニング)	クリーニング	回収した使用済子ども服の専門的な洗濯・管理／「しゅらみい」で提供するレンタル着用替えの手配・管理全般
保育施設	使用済子ども服回収検証拠点	回収ボックス設置協力と使用済子ども服の回収
遊び場（施設）	使用済子ども服回収検証拠点	同上
	着替えレンタル実証体験調査拠点	フィールドの提供／企画／利用者へのアンケート調査協力
回収対象地域の市町村 千葉県（千葉市、柏市、成田市）、神奈川県（横浜市）、東京都（文京区、調布市、府中市）埼玉県（さいたま市）	事業実施に伴う廃棄物処理法上の取り扱い（「専ら物」該当性）に関する確認	再利用目的の回収につき、廃棄物処理法上の許可が不要であることの確認を完了

5. 事業の成果

■ 5-1. 使用済子ども服回収検証

5-1-1. 回収システムと啓発活動の有効性検証（定性評価）

5-1-2. 回収実績と環境負荷低減効果（定量評価）

5-1-3. 参加者の意識変容と行動変化（定性評価）

■ 5-2. 遊び場における着替えレンタル有効性検証

5-2-1. 遊び場における着替えレンタルの実証体験調査（定性評価）

5-2-2. 衣服の準備・管理に関する現況調査（補足調査）

5-1-1. 回収システムと啓発活動の有効性検証（定性評価）

保護者の生活動線上の施設（保育施設・遊び場）における効率的な回収スキームの構築を目指し、回収ボックスの設置運用を実施。単なる回収にとどまらず、子ども参加型の回収システム構築による参加促進効果や、回収された子ども服のリユース適性（質・量）、および協力者の意識変容を検証した。

■ 検証結果

※効率検証を優先し、保育施設ルートでの当初の回収期間・各施設3ヶ月を各施設1ヶ月間に短縮し、総量目標値を調整した。

検証項目 (KPI)	当初目標	調整後目標	実績	達成率
回収拠点数	13箇所	-	15箇所	115% ◎超過達成
回収量	6,000点	2,600点	4,614点	177% ◎超過達成
CO2排出量削減効果	約779 kg-CO2 総回収量 443.7kg × 合成繊維率 63.6% × 排出係数 2.76			

※CO2削減効果の算出根拠 算出式：総回収量(443.7kg) × 合成繊維率(63.6%) × 廃プラ焼却係数(2.76) = 778.8kg

(出所) 排出係数(2.76)：環境省「算定・報告・公表制度」廃プラスチック類(一般廃棄物)焼却係数

chrome-extension://efaidnbmnnpicajpcgclefindmkaj/https://policies.env.go.jp/earth/ghg-santeikohyo/files/calc/itiran_2023_rev4.pdf (最終閲覧：2025年12月19日)

※合成繊維率(63.6%)

(出所) 環境省「廃棄物分野における排出量の算定方法について」<https://www.env.go.jp/earth/ondanka/ghg-mrv/committee/haikibutu.pdf> (最終閲覧：2025年12月19日)

5-1-1. 回収システムと啓発活動の有効性検証（定性評価）

■回収ボックス設置_保育施設：**11**施設(設置開始順)

各1ヶ月間設置

	施設名	市区町村	定員（公式HP参照、2025年12月19日時点）
1	こばとこどもえんネスト	千葉県柏市	220名
2	アストロベースキャンプ保育園	千葉県千葉市	102名
3	ヒューマンアカデミー上石原保育園	東京都調布市	80名
4	北柏駅前保育園わらび	千葉県柏市	30名
5	北柏小規模保育園わらび	千葉県柏市	16名
6	よつば保育園	東京都府中市	100名
7	認定こども園くるみこども園	千葉県柏市	214名
8	小深保育園	千葉県千葉市	80名
9	ひばりっこくらぶ保育園	神奈川県川崎市	90名
10	こひばり保育園	神奈川県川崎市	60名
11	ひばり保育園	神奈川県川崎市	130名

※選定拠点について

いずれも着替えレンタル「しゅらみい」のトライアル導入実績のある施設である。施設側に既にリユース先の意義（回収された子ども服が、どのような活動で子どもたちの支援になるか）を深く理解いただいていたため、設置交渉および運用フローの調整が円滑に進んだ。

5-1-1. 回収システムと啓発活動の有効性検証（定性評価）

■回収ボックス設置_遊び場（施設）：4施設(設置開始順)

	施設名/設置場所	施設種別	市区町村	設置期間
8	成田ゆめ牧場 /ビッグバーン	牧場	千葉県成田市	1ヶ月
9	西武東戸塚S.C. /7階ファーストブリッジ近辺	商業施設	神奈川県横浜市	2週間
10	埼玉スタジアム2002 /レストプラザ	スタジアム 親子スペース	埼玉県さいたま市	1ヶ月半
11	株式会社フレーベル館 /1階ショールーム前	企業 親子スペース	東京都文京区	2ヶ月

※選定拠点について

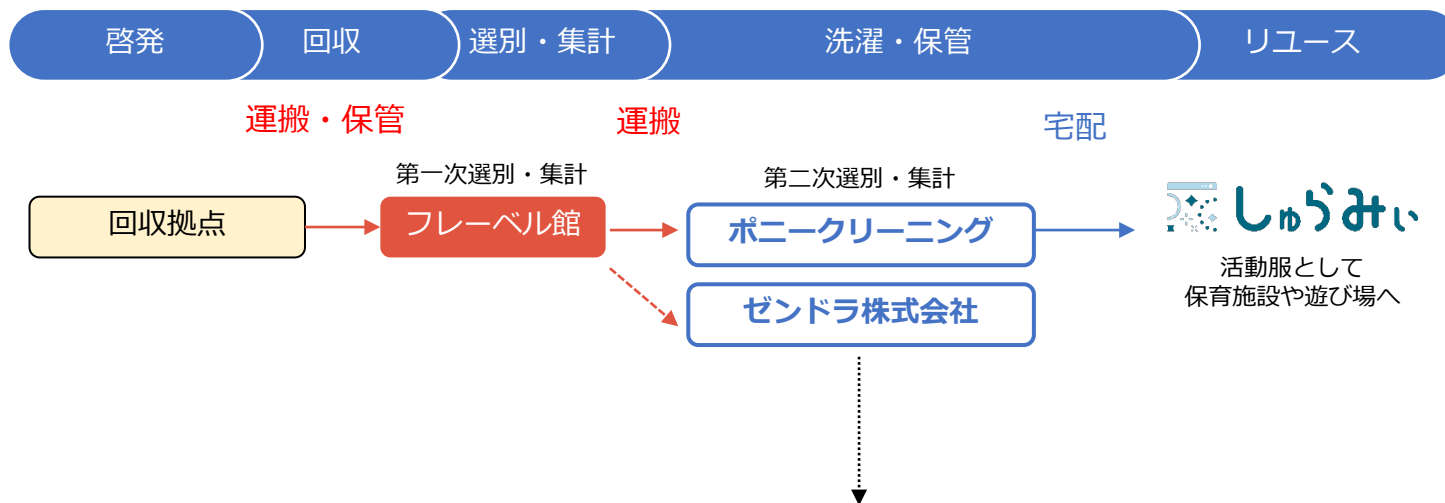
「成田ゆめ牧場」と「埼玉スタジアム2002」は、以前より「しゅらみい」を活用したイベント連携を協議していた施設である。また、「西武東戸塚S.C.」とは、環境省主催「デコ活連携実践プロジェクト」における新規連携提案を契機に、相互理解を深めてきた。これらの施設は、「回収後の用途（リユース）」とそれがもたらす「子どもたちの体験価値向上」という事業目的への理解が深いため、合意形成が極めて迅速に進んだ。その結果、設置場所の確保や運用フローの調整も円滑に行われた。

なお、「株式会社フレーベル館」本社内、ショールーム（子どもたちが絵本に親しめる親子スペース）前を拠点として活用することで、自社リソースを活かした効率的な検証を狙った。

5-1-1. 回収システムと啓発活動の有効性検証（定性評価）

■回収システムの紹介

弊社は、「しゅらみい」でのリユースを目指した使用済子ども服の回収スキームを構築するため、本事業を通じて、啓発から回収後のクリーニングから保管管理に至る一連のオペレーション体制を検証した。



「しゅらみい」でのリユース基準外となった子ども服は、ゼンドラ株式会社へ引き渡し。同社がハブとなり、パートナー企業と連携して「廃棄ゼロ」を実現。

- ① 自社主催の「こども服の譲渡会」等を通じ、地域住民へ無償で提供。
- ② 国内での再利用が難しいものは、海外店舗「Jalan Jalan Japan」（マレーシア等）を通じてリユース販売を予定する。
- ③ 海外でも販売困難な子ども服は、繊維リサイクルの専門企業である株式会社大綿へ引き渡し、自動車の内装材（フェルト）や工業用ウエス等へマテリアルリサイクル。

5-1-1. 回収システムと啓発活動の有効性検証（定性評価）

■回収システムの紹介

回収

回収対象) 80~160cmの子ども服 上下 (シャツ・ズボン) ※洗濯済みのもの ※傷や汚れがあってもOK
主に0歳から小学校入学前の子どもが着用した子ども服とし、目立った汚れや傷みがなく、洗濯・再利用に耐える状態のものを想定。

選別・集計

NG選別①

品質・品目
(リユース不可)

NG基準

品質:
著しい汚れ・穴・破れ

品目:
体操着・制服
下着・靴下・水着・布おもちゃ
おもちゃ・靴・バッグ・雑貨

NGな服は

リサイクルへ

NG選別②

保育適正
(「しゅらみい」基準)

NG基準

・裏起毛素材 …汗をかいた後の調整が困難なため
・スナップボタンあり …子どもだけで着脱が難しいため
・装飾つき …誤飲防止のため

<基準設定>

認定こども園くるみこども園(千葉県柏市)をはじめとした保育者にヒアリングを行い、「しゅらみい」リユースには適さないと判断。

NGな服は

譲渡会リユースへ

基準に沿った服が

「しゅらみい」
リユースへ

5-1-1. 回収システムと啓発活動の有効性検証（定性評価）

啓発

弊社は、単なる衣類回収ではなく「使用済子ども服の回収プロセス自体を、子どもたちにとっての教育機会に変える」、参加型・啓発型の新たなシステムを構築した。「今、企業に求められる社会の価値の創出」（経済産業省）の実践ともいえる。

従来の回収システム

リユース先が不透明
大人のアクションが中心

フレーベル館の回収システム

リユースを子どもたちも含めた
「自分ごとの活動」へ転換

ダンボール製の無地ボックスを採用。
子どもたちが「しゅらみい」を着用の上、回収ボックスをペイントする活動を各施設で実施。保護者も含め、リユース活動に対する興味関心と愛着を深めた。

回収された服は「しゅらみい」でリユースされることを子どもたち自身が認識した。

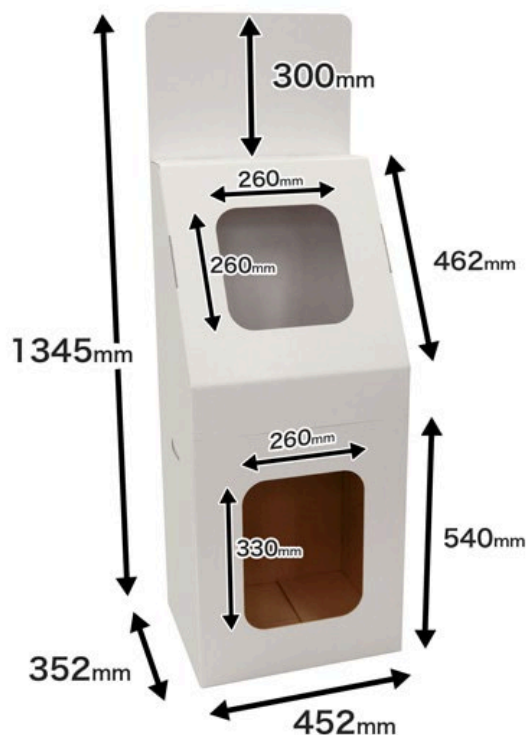


【狙い】

- ◎子どもたち：「しゅらみい」着用によるリユース循環の体感
- ◎設置施設：環境貢献活動の提供による施設の価値向上
- ◎施設利用者（保護者）：リユース活動への参加意欲向上

5-1-1. 回収システムと啓発活動の有効性検証（定性評価）

啓発



タマパック株式会社が運営するサイト「売り場職人」にて、1台あたり9,020円（税込）で調達

■ ボックスの仕様

厚さ約3mmのダンボール製。

安定感がありながら軽量であるため移設も容易。

■ 掲示・案内とカスタマイズ

視覚的な誘導：背面ボードには①事業案内ポスターを掲示し、ボックス下部には②回収ルールポスターを掲示。

■ 各地での制作・設置エピソード

- 埼玉スタジアム2002：近隣の銀鈴幼稚園（埼玉県さいたま市）の子どもたちが、ダイナミックなペイントを施した。
- そごう・西武：9月の回収イベント時に、来場した子どもたちと協力して制作を行った。
- 成田ゆめ牧場：イベントで利用者がペイント。
- フレーベル館本社：牧場でペイントされたものをさらに社員の手で仕上げ、設置。

5-1-1. 回収システムと啓発活動の有効性検証（定性評価）

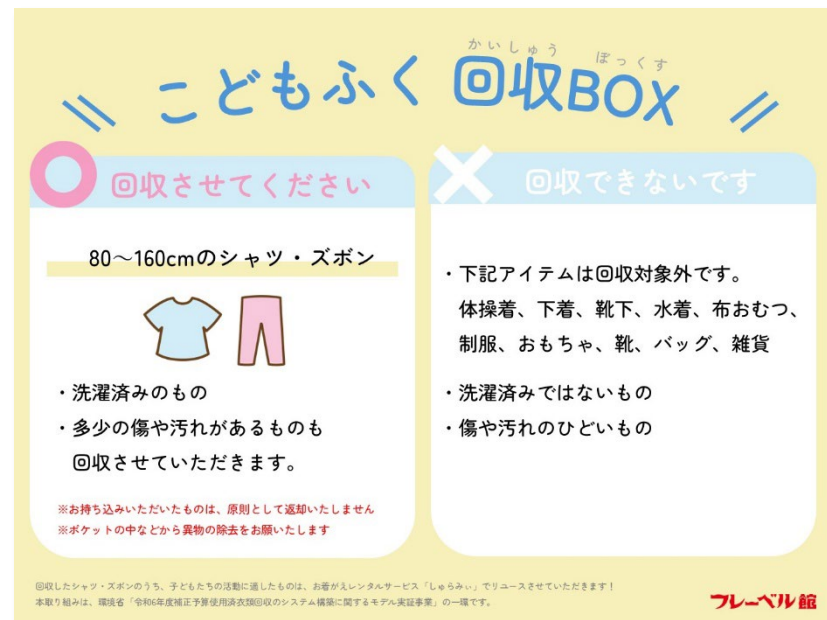
啓発

A3サイズのポスターを2枚作成し、回収ボックスに掲示することで、回収を効果的に案内。

特に、事業案内のポスターはすべてひらがなで構成することで、子どもたちが取り組みの流れをより容易に理解できるように工夫。



①事業案内ポスター



②回収ルールポスター

5-1-1. 回収システムと啓発活動の有効性検証（定性評価）

子どもたち参加型 回収ボックスの設置プロセス

1. フレーベル館から施設へ回収事業協力依頼



2. 事前調整

絵の具やローラー等の
ペイントアイテム
も準備

3. 子どもたちが「しゅらみい」を着用



4. 保育者から子どもたちへ回収ボックスについての説明（環境教育）

いらない
お洋服は、
いつも
どうしてる？



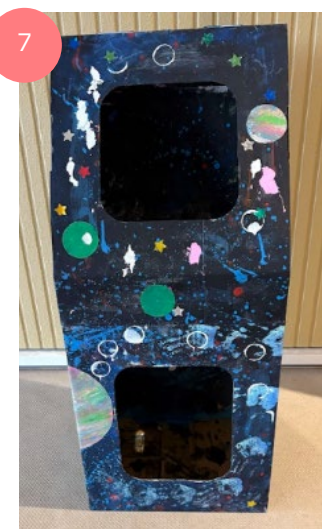
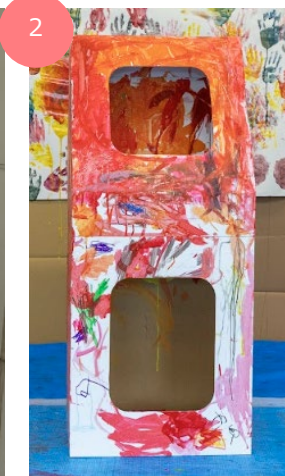
このボックスに
入れる服は、
みんなの遊びの
ためにリユース
するよ！

5. 子どもたちが回収ボックスをペイント



5-1-1. 回収システムと啓発活動の有効性検証（定性評価）

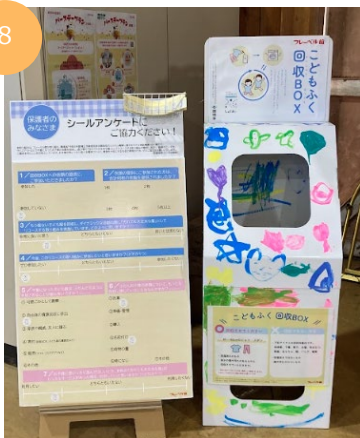
■子どもたち参加型 回収ボックスの完成写真



5-1-1. 回収システムと啓発活動の有効性検証（定性評価）

■ 子どもたち参加型 回収ボックスの完成写真

8



牧場イベントに参加した子どもたちがペイント

9



回収イベントに参加した子どもたちがペイント

10



埼玉県さいたま市・銀鈴幼稚園の
子どもたちがペイント

11



牧場イベントに参加した子どもたち
+株式会社フレーベル館社員がペイント

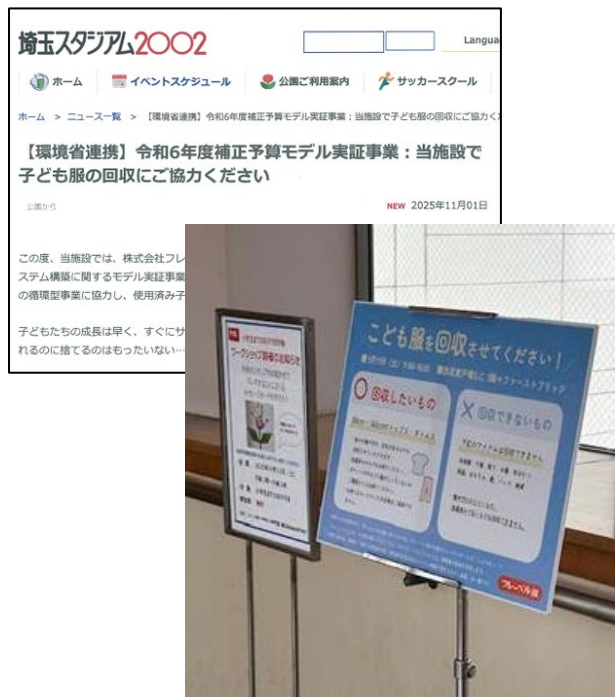
5-1-1. 回収システムと啓発活動の有効性検証 (定性評価)

啓発

成田ゆめ牧場・埼玉スタジアム2002 :
公式HPやXでの発信



西部・東戸塚S.C :
館内での回収ルールPOPの設置



フレーベル館 親子スペース :
会社前のポスター掲示・従業員への一斉メール



5-1-1. 回収システムと啓発活動の有効性検証（定性評価）

回収

■ 保育施設ルート：

利用者（保護者）との高いエンゲージメントを活かし、予測を上回る回収スピードで進行。
施設側からの早期の「引き取り依頼」があった際には、通常のルート営業に加え、弊社の営業担当（千葉・神奈川支社等）が柔軟に対応。顧客である保育施設のスペースの圧迫を回避し、持続的な協力関係の維持に努めた。

■ 遊び場（施設）ルート：

回収スピードが比較的緩やかだったこともあり、回収作業を期間終了後に集約。

回収拠点	保管場所	回収頻度
保育施設	・ 施設内バックヤード ・ 近隣の営業担当店舗	月1～3回ペース
遊び場（施設）	施設内バックヤード	1回



フレール館	B1F資料室
-------	--------

5-1-1. 回収システムと啓発活動の有効性検証（定性評価）

選別・集計



各施設ごとに回収子ども服を計量後、袋から出し服を山積み



タグを見て、サイズ別に速やかに分類
(アイテム別にも分類)



サイズ別レーンに運び、
アイテム別・ルート別に最終分類
→集計内容を記録
→各種袋にまとめる。



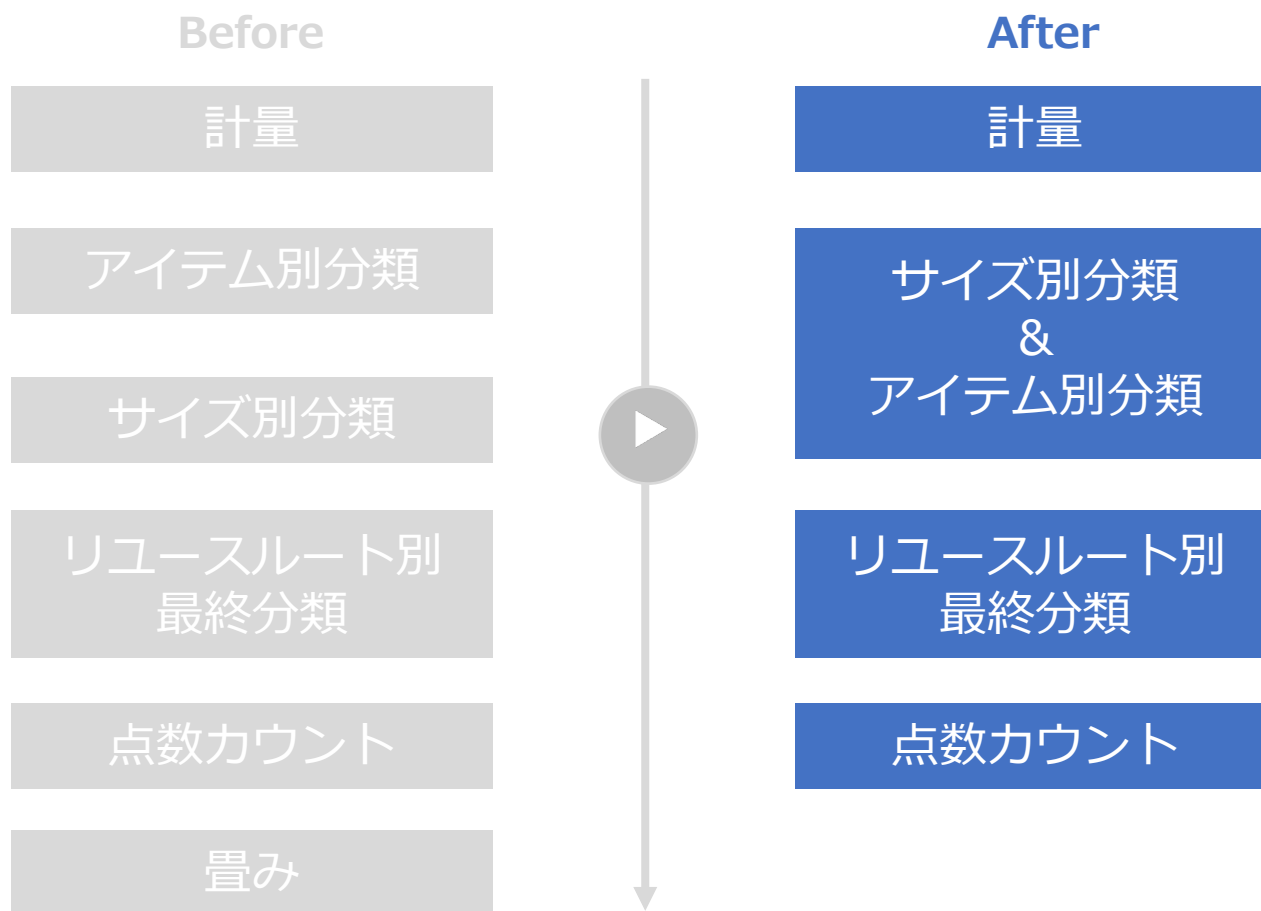
名前が書かれている場合は、該当箇所をカットするカペンで塗りつぶした。



5-1-1. 回収システムと啓発活動の有効性検証（定性評価）

選別・集計

- **工程の順序見直し**：「アイテム別分類」と「サイズ別分類」の順序を入れ替え同時に実施することで作業効率化。
- **「畳み」工程の廃止**：次の事業者に渡す際の体裁のための「畳み」作業をプロセスから排除し、工数削減を実現。



5. 事業の成果

■ 5-1. 使用済子ども服回収検証

5-1-1. 回収システムと啓発活動の有効性検証（定性評価）

5-1-2. 回収実績と環境負荷低減効果（定量評価）

5-1-3. 参加者の意識変容と行動変化（定性評価）

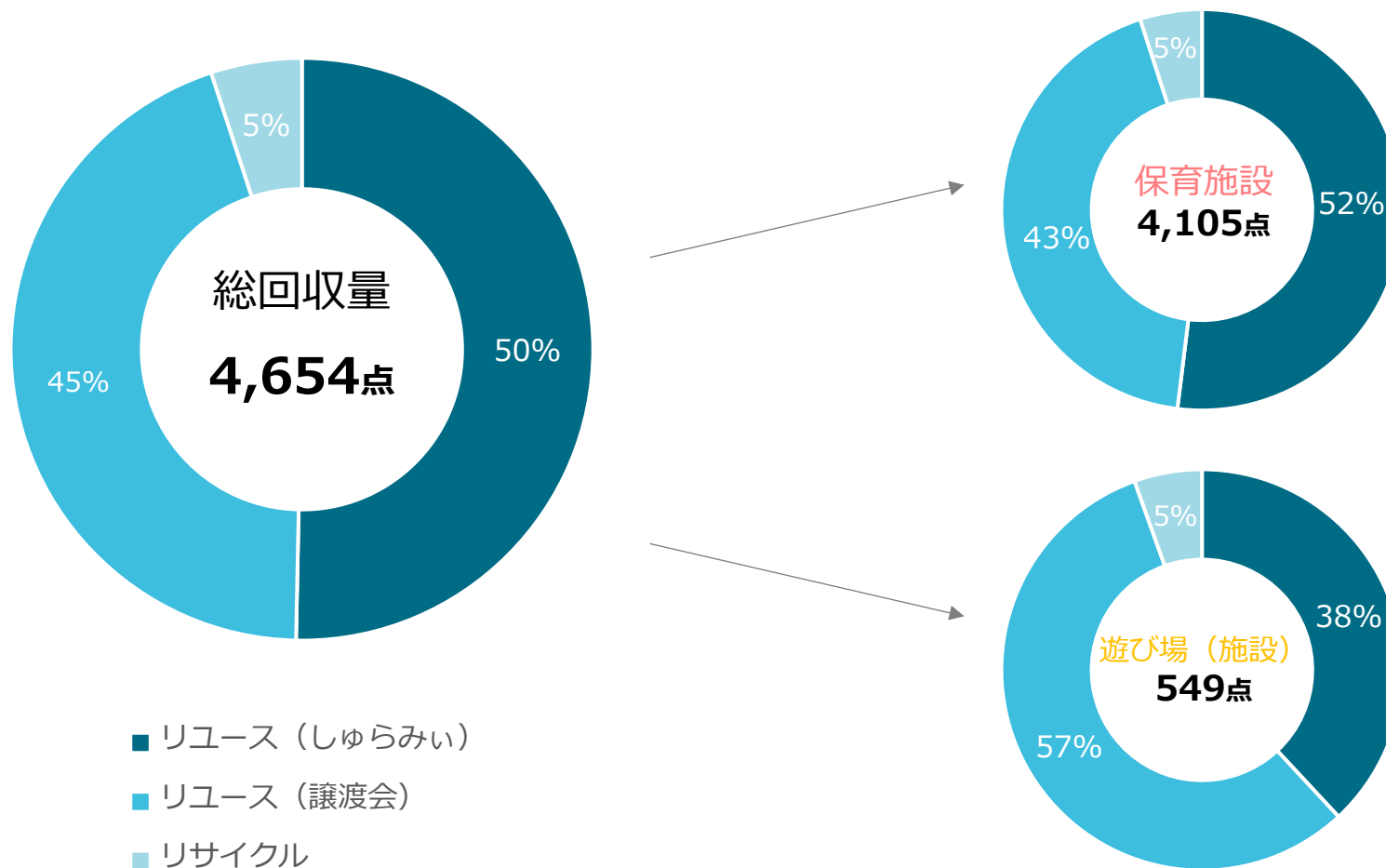
■ 5-2. 遊び場における着替えレンタル有効性検証

5-2-1. 遊び場における着替えレンタルの実証体験調査（定性評価）

5-2-2. 衣服の準備・管理に関する現況調査（補足調査）

5-1-2. 回収実績と環境負荷低減効果（定量評価）

■ 第一次選別結果（回収経路別）

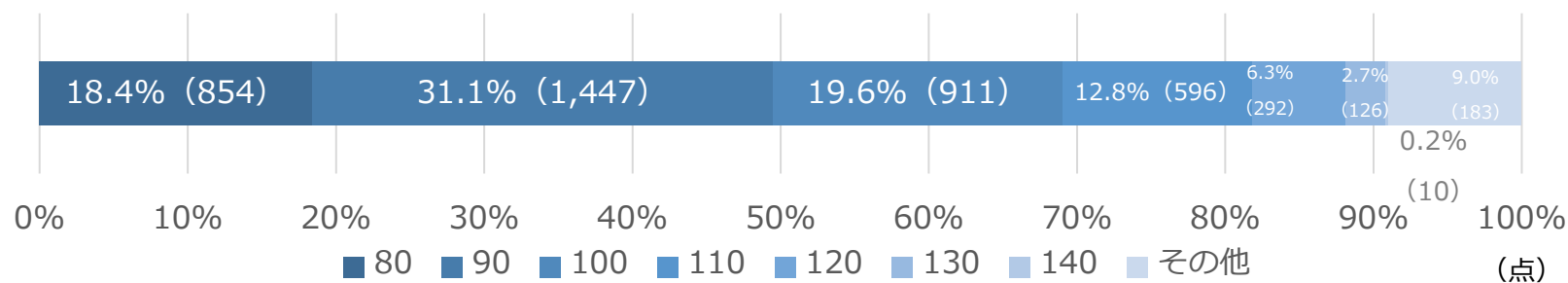


5-1-2. 回収実績と環境負荷低減効果（定量評価）

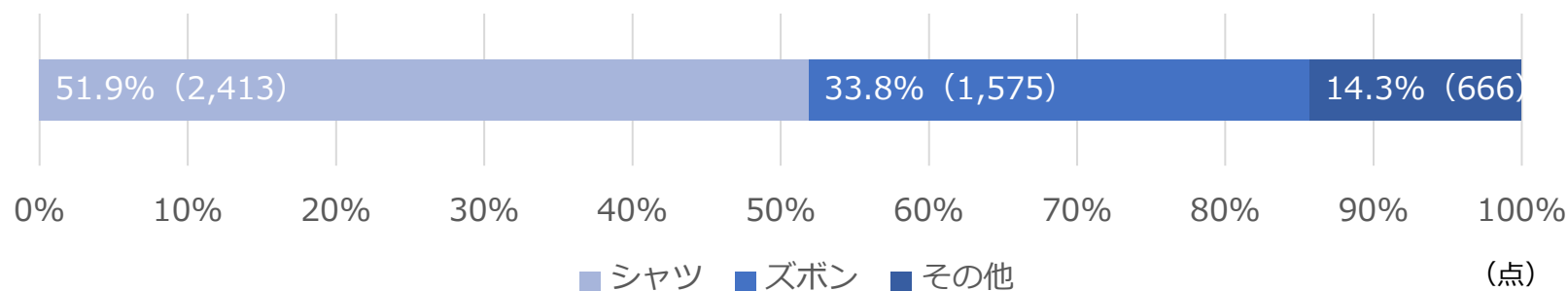
■ 第一次選別結果（属性別）

リユース・リサイクル用途問わず、回収子ども服のサイズ・品目別構成比を算出した。その傾向を以下のグラフに示す。

サイズ別



品目別



5-1-2. 回収実績と環境負荷低減効果（定量評価）

■ 第一次選別結果（属性別 ※リユース限定）

品目により、「しゅらみい」リユース率の傾向が真逆となる興味深い結果が得られた。

サイズ	シャツ		ズボン		その他
	しゅらみい	譲渡会	しゅらみい	譲渡会	
80	148 (34%)	289	260 (73%)	98	59
90	364 (46%)	432	386 (69%)	173	92
100	385 (66%)	202	184 (63%)	107	33
110	216 (64%)	123	134 (59%)	94	29
120	126 (78%)	36	54 (51%)	51	25
130	65 (76%)	21	10 (33%)	20	10
140	6 (100%)	0	4 (100%)	0	0
その他					183
合計	1,310 (54%)	1,103	1,032 (66%)	543	431

n=4,419点

シャツは、フリル等の装飾が多い低年齢サイズ（80-90）（右記画像参照）よりも、シンプルなデザインが増えるサイズ（120-130）ほどリユース率が上昇した。

対照的にズボンは、誤飲防止のためあらかじめ装飾が省かれた低年齢サイズほど「保育適正（安全性・機能性）」に合致し、高いリユース率を記録した。

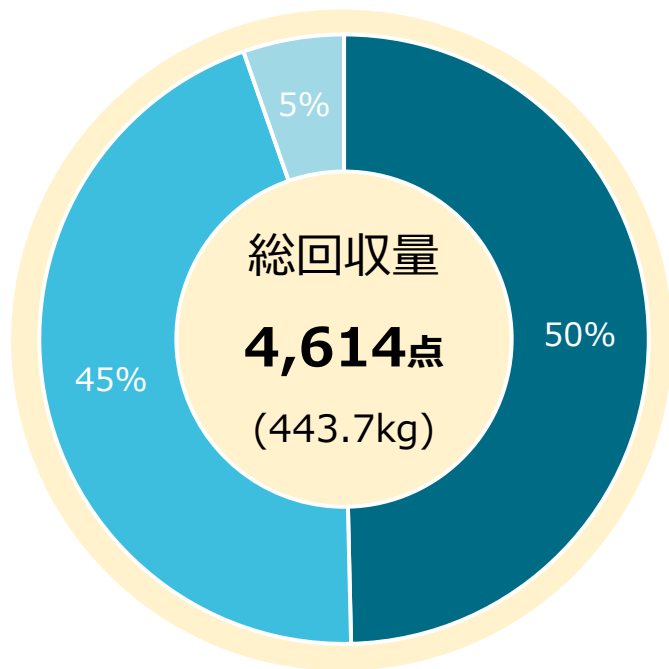
この品目特性の差を捉えることが、「しゅらみい」リユースのための効率的な回収・選別の鍵となりそうだ。



5-1-2. 回収実績と環境負荷低減効果（定量評価）

■最終選別結果（リユース・リサイクル用途別）

資源循環率 **100%**、リユース率約 **95%** を達成！



- リユース（しゅらみい）
- リユース（譲渡会）
- リサイクル

● リユース
（「しゅらみい」で活用）

50%
(2,290点)

● リユース
（「こども服の譲渡会」で頒布）

45%
(2,077点)

● リサイクル

5%
(247点)

※本項の合計数値の40点の差（4,614点／4,654点）は、クリーニング工程への運搬時における計数・共有漏れに起因する。ポニークリーニング工場を選別を実施した、第二次選別結果を最終確定値とする。

※異物混入はなし

※リユース（「しゅらみい」で活用）に選別された子ども服は、まずはポニークリーニング工場でストック在庫として保管・管理（2025年12月19日現在）。

5. 事業の成果

■ 5-1. 使用済子ども服回収検証

5-1-1. 回収システムと啓発活動の有効性検証（定性評価）

5-1-2. 回収実績と環境負荷低減効果（定量評価）

5-1-3. 参加者の意識変容と行動変化（定性評価）

■ 5-2. 遊び場における着替えレンタル有効性検証

5-2-1. 遊び場における着替えレンタルの実証体験調査（定性評価）

5-2-2. 衣服の準備・管理に関する現況調査（補足調査）

5-1-3. 参加者の意識変容と行動変化（定性評価）

■ 検証概要

本事業への参加（認知）によるリユース意識の向上を確認し、利用者の行動変化の可能性を探る。

調査対象	回収ボックス設置施設（保育施設・遊び場）の保護者
調査方法	<ul style="list-style-type: none">オンライン調査（Googleフォーム）対面式シール投票（パネルボード）
調査期間	2025年8月13日～12月11日

■ 検証結果（重点項目）

検証項目（KPI）	目標	実績	達成率
リユース意識の向上 （リユースへの継続参加意向） 80%以上	80%	90%	113%◎超過達成

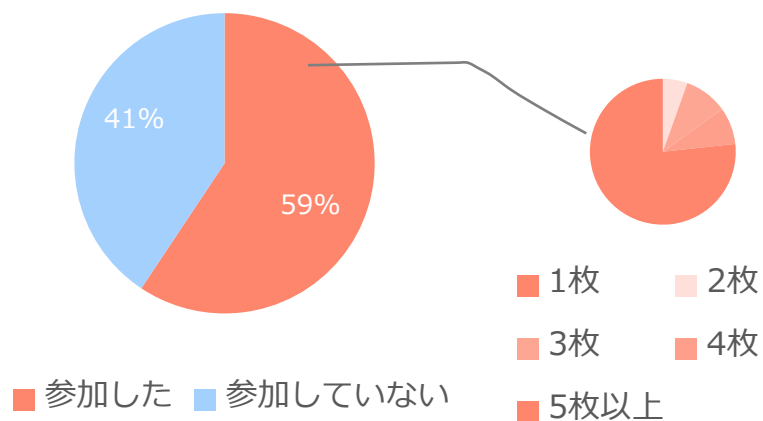
5-1-3. 参加者の意識変容と行動変化（定性評価）

Q. 本事業への協力

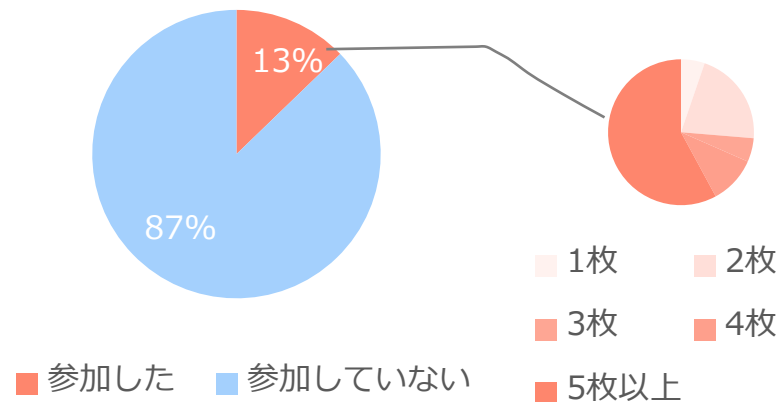
回収ボックスへの衣類の提供に、ご参加いただけましたか？

衣類の提供にご参加された方は、合計何枚の衣服を提供されましたか？

保育施設：保護者(n = 123名)



遊び場：保護者(n = 133名)



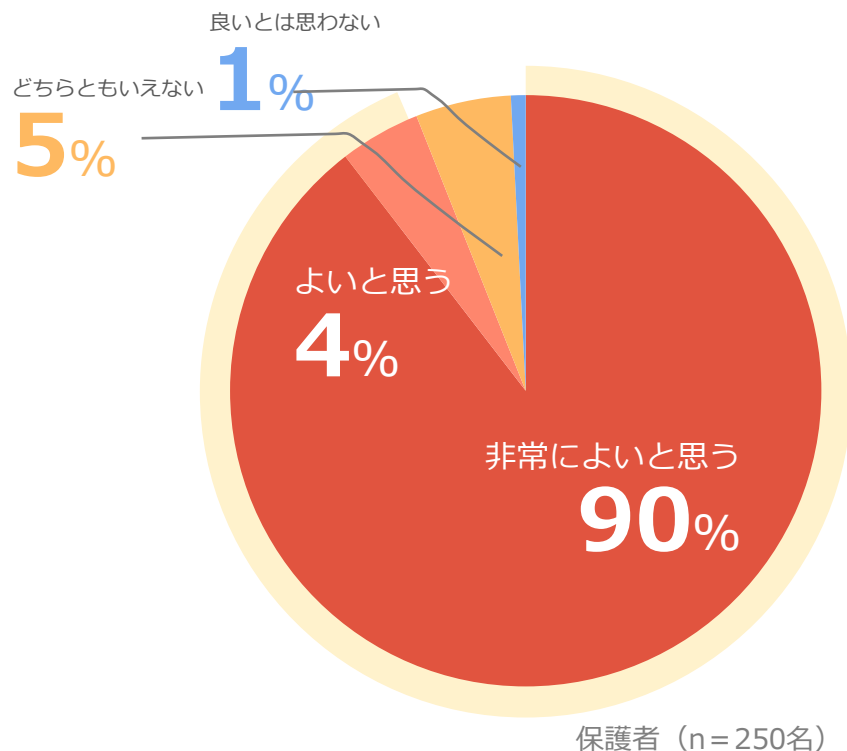
自己申告制による回収協力人数把握のため、実数との乖離が発生。

全体数の推計ではなく、アンケート回答者内の参加割合の有効データとして採用。

5-1-3. 参加者の意識変容と行動変化（定性評価）

Q. 本事業への賛同

もう着ない子ども服を回収し、ダイナミックな活動の際に「汚れても大丈夫な服」としてリユースする取り組みを実施しています。どのように思いますか？（単一選択）



94% の本事業への肯定的な意識を確認

「しゅらみいへのリユースの確実性」と「子どもたちのダイナミックな遊びを応援する」という明確な目的が、保護者の共感を呼び、「非常によいと思う」「よいと思う」といった協力継続意向を強く引き出していると考えられる。

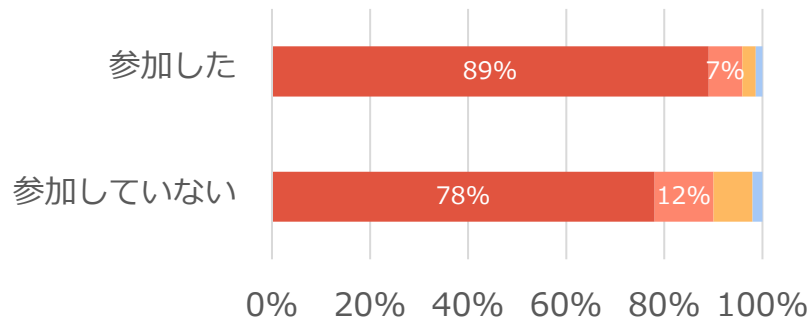
5-1-3. 参加者の意識変容と行動変化（定性評価）

＼参加有無による事業受容性／

Q. 本事業への協力

×

Q. 本事業への賛同



- 非常に良いと思う
- どちらかといえば良いと思う
- どちらともいえない
- どちらかといえば良いとは思わない
- 良いとは思わない

参加・非参加を問わず8割以上が「非常に良い」と回答しており、事業への心理的ハードルは極めて低い。

非参加層においても高い賛同が得られていることから、不参加の要因は意識の問題ではなく、回収場所やタイミングといった物理的な制約にあると考えられる。

Q.回収ボックスへの衣類の提供に、ご参加いただけましたか？

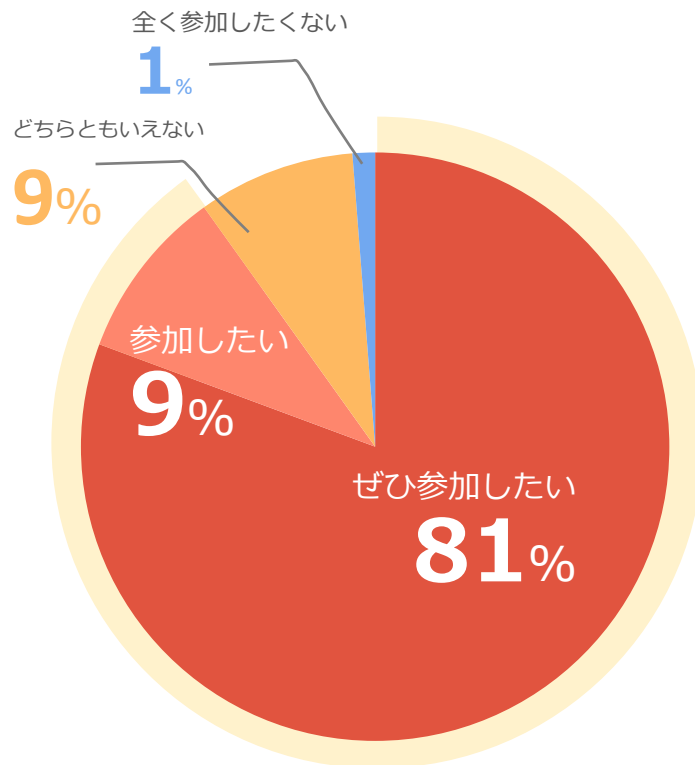
× Q.もう着ない子ども服を回収し、「汚れても大丈夫な服」としてリユースする取り組みを実施しています。どのように思いますか？

5-1-3. 参加者の意識変容と行動変化（定性評価）

Q. 本事業への継続参加意向

今後、このリユースの取り組みに参加したいと思いますか？（単一選択）

（ぜひ参加したい／どちらかといえば参加したい／どちらともいえない／どちらかといえば参加したくない／参加したくない）



保護者（n=243名）

90% の本事業への 継続的な参加意向を確認

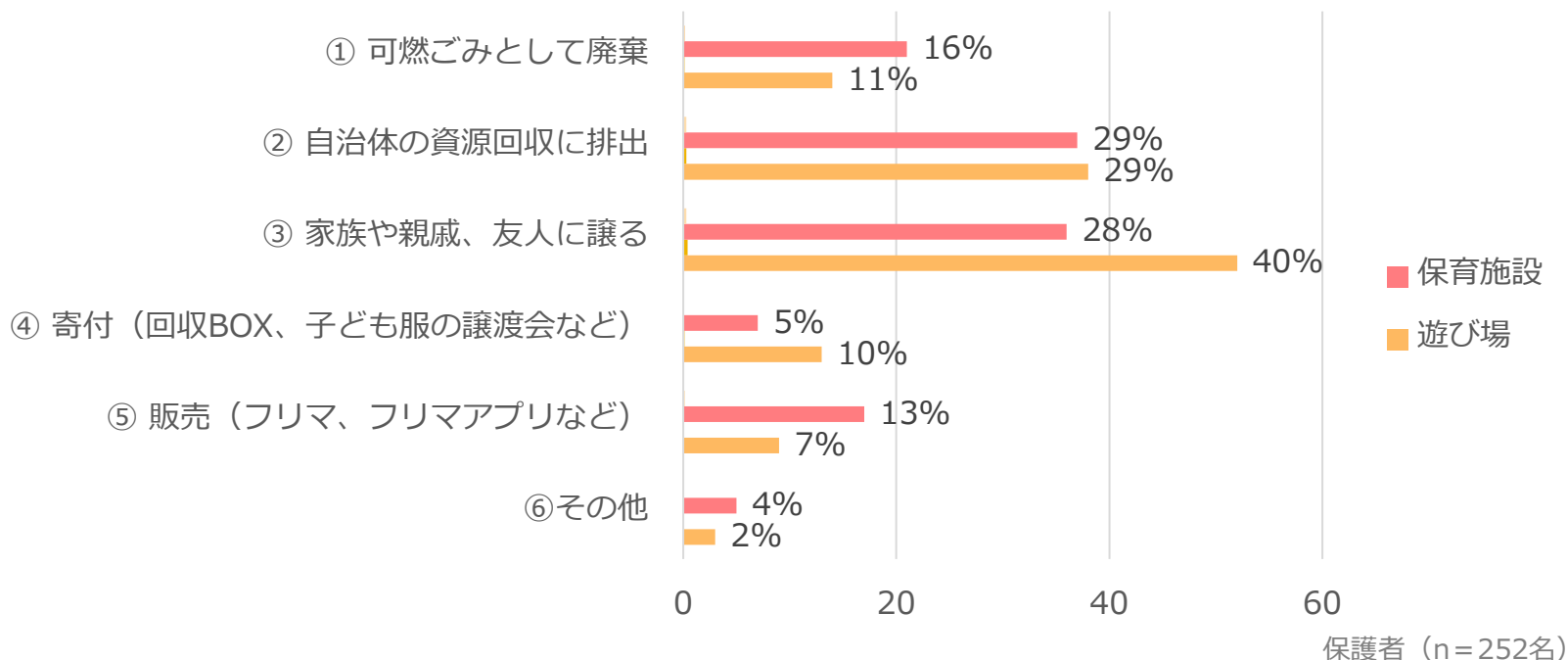
利用者の9割以上がサービス継続を希望。
衣類廃棄に対する「罪悪感」を「貢献感」へ変えることに成功した。
また、回収拠点が「日常動線」にあったことも、一般的に衣類を「ごみ」として廃棄する最大の理由である「処理に手間がかからないから」というハードルを解消したと考える。

5-1-3. 参加者の意識変容と行動変化（定性評価）

Q. 普段の手放し方

不要になった子ども服は、ふだんどのように手放されることが最も多いですか？（単一選択）

（非常に良いと思う／良いと思う／どちらともいえない／あまり良いとは思わない／良いとは思わない）



普段の手放し方の上位は、調査場所（保育施設／遊び場）を問わず、「自治体の資源回収に排出（29%）」と「家族や親戚、友人に譲る（28～40%）」だった。遊び場利用者の4割が「譲渡」を選択する一方、保育施設利用者は「可燃ごみとして廃棄（16%）」や「販売（13%）」が遊び場より高く、処分の効率化や即時性を求める傾向がうかがえる。

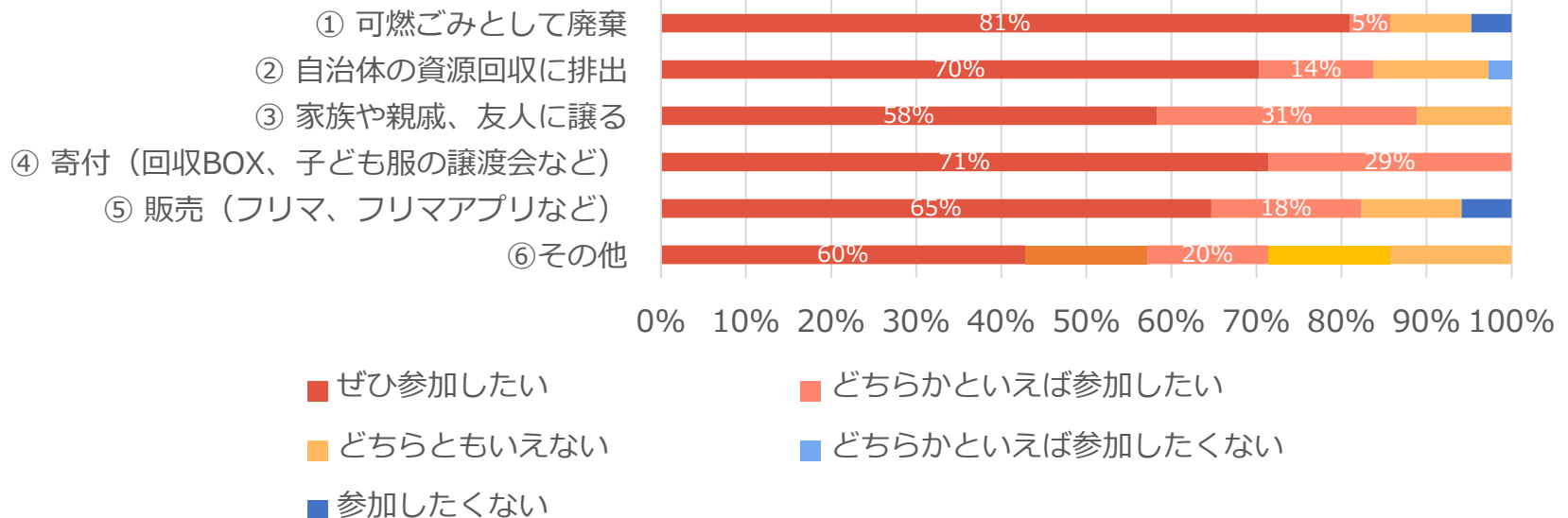
5-1-3. 参加者の意識変容と行動変化（定性評価）

＼既存行動別の継続参加意向／

Q. 本事業への継続参加意向

×

Q. 普段の手放し方



可燃ごみ廃棄層の8割以上が「ぜひ参加したい」と回答！全セグメント中で最高値を記録した。

環境省の全国調査では、衣類を廃棄する理由の69%が「手間や労力がかからないから」であるが、本事業はこの「手間」をゼロにしたことで、廃棄層をリユース意向層へと一気に引き上げたと考えられる。

Q.今後、このリユースの取り組みに参加したいと思いますか？ × Q.不要になった子ども服は、ふだんどのように手放されることが最も多いですか？

5-1-3. 参加者の意識変容と行動変化（定性評価）

■ 検証概要

補足調査として、回収ボックスを設置した施設の関係者に対し、設置期間後アンケートを実施し回収システムについて分析する。

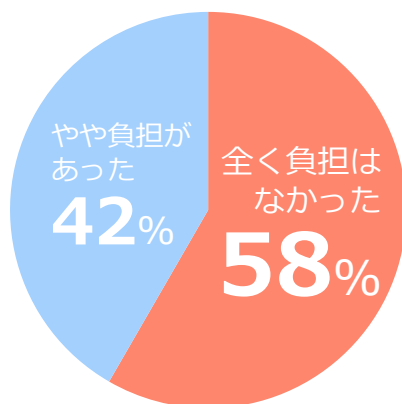
調査対象	回収ボックス設置施設（保育施設・遊び場）の運営関係者
調査方法	オンライン調査（Googleフォーム）
調査期間	2025年8月13日～12月11日

5-1-3. 参加者の意識変容と行動変化（定性評価）

Q. 回収ボックス設置の負担

回収ボックスの設置・管理等に関して、ご負担はございましたか？（単一選択）

保育施設：保育者
(n=36名)



- 全く負担はなかった
- やや負担があった
- 大きな負担があった

遊び場：運営者
(n=3名)



- 全く負担はなかった
- やや負担があった
- 大きな負担があった

遊び場・運営の方には、設置に関して概ね負担なくメリットを感じていただいた（自由回答・全文）

「環境への取組としてPRできるメリットを感じました。」

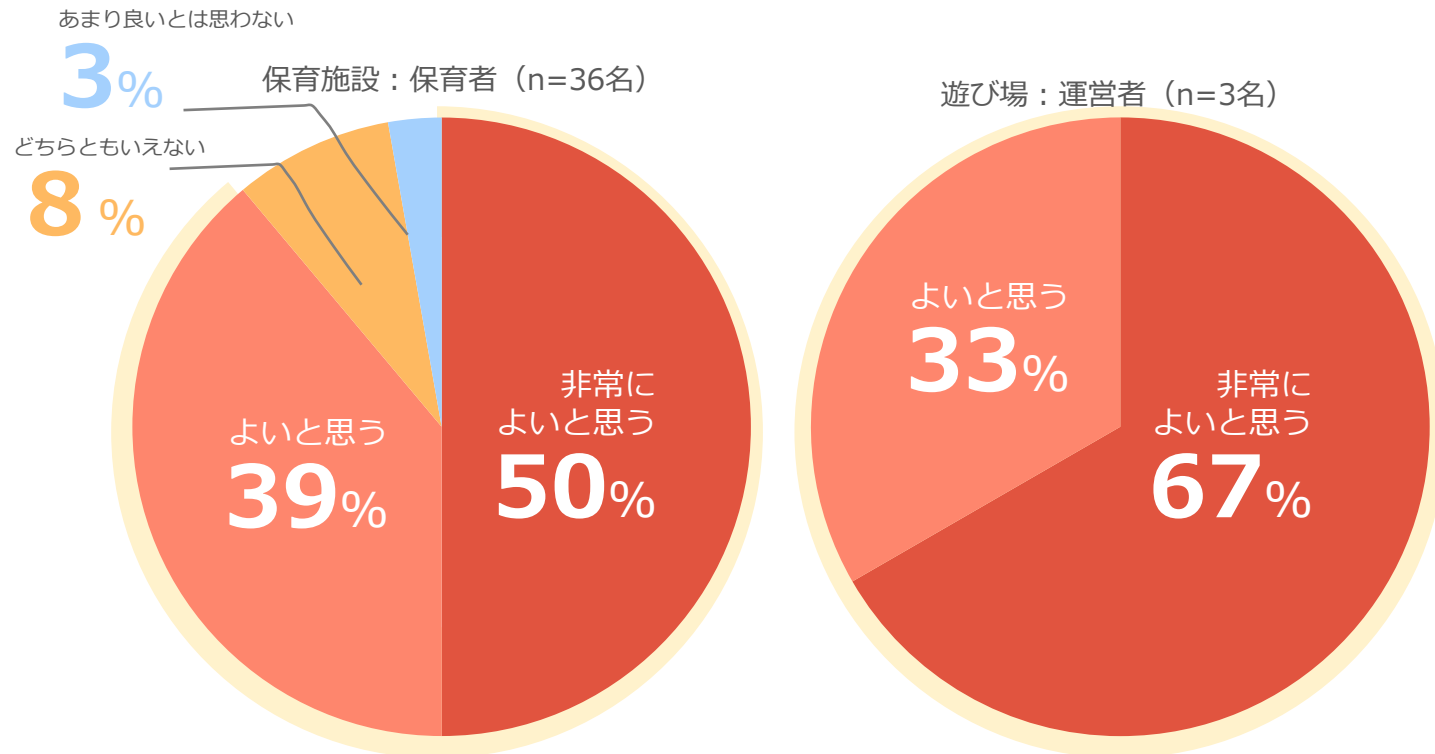
「回収ボックスの設置は当社のイメージUPにつながっていた。」

「公の施設として、SDGsに紐づけ可能な取り組みを実施することは親和性も高く、施設管理者としての評価向上につながる取組であると感じました。」

5-1-3. 参加者の意識変容と行動変化（定性評価）

Q. 本事業への賛同

もう着ない子ども服を回収し、ダイナミックな活動の際に「汚れても大丈夫な服」としてリユースする取り組みを実施しています。どのように思いますか？（単一選択）

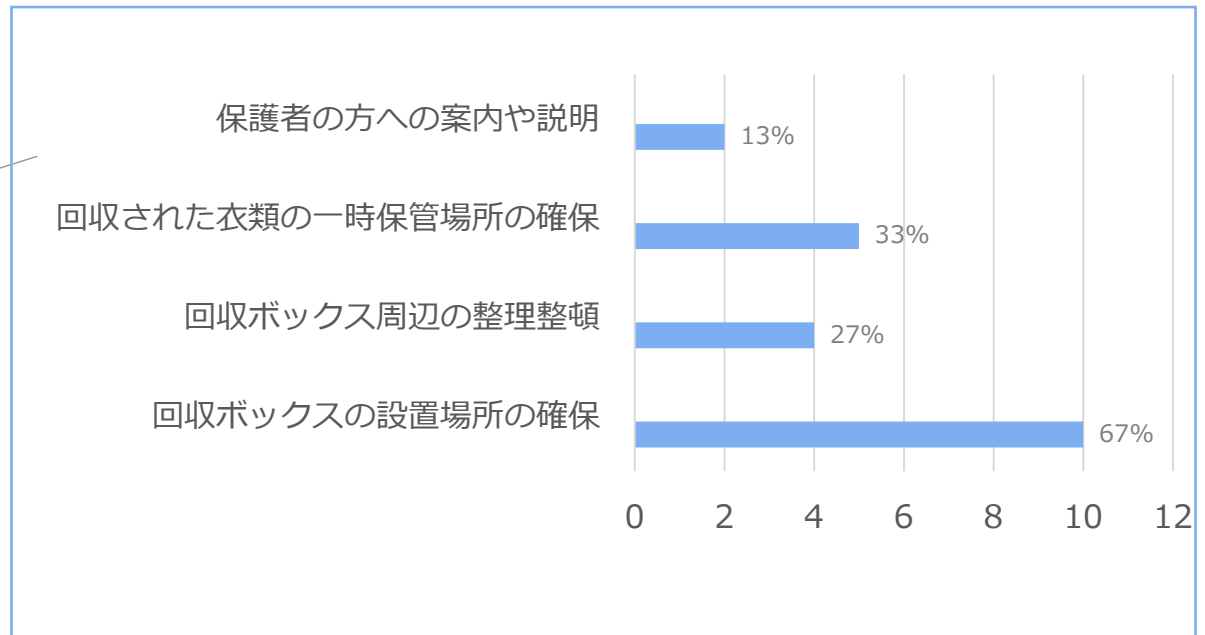
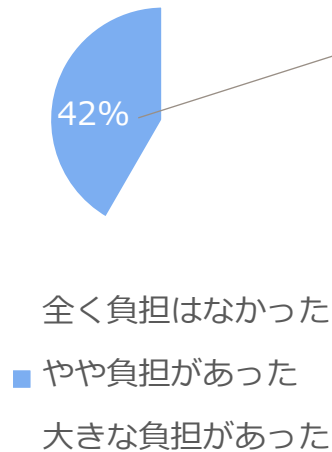


5-1-3. 参加者の意識変容と行動変化（定性評価）

Q. 回収ボックス設置の負担

「やや負担があった」「大きな負担があった」とお答えになった方にお聞きします。具体的にどのような点がご負担でしたか？（複数選択可）

保育施設：保育者
(n=15名)



5-1-3. 参加者の意識変容と行動変化（定性評価）

◎保育者の自由回答より：「通いやすい場が回収先であること」の価値の高さがわかった
「通っている保育園」への設置で、利便性があり、手間や心理的なハードルが大きく下がったことを評価！

利便性・負担軽減としての評価

- 洋服を廃棄してしまうにはもったいない・だからといって、どこかに持っていくのも面倒に感じている保護者にとって、手軽に出せるのはとても良いと思いました。
- 保護者にとって汚れた服を洗濯せずに済むという点で負担軽減、そして汚れを気にすることで遊びが制限されるということも軽減されると思う。乳児ではなく幼児にとっては良さそう。
- 普段忙しくて、なかなか出来ない子ども服を整理するきっかけになったり…リユース活動に関心をもつきっかけになったと思う。
- 子ども服はサイズアウトすると家で山積みになってしまうので…（リサイクルという観点でよいと思います。）
- 保育園の前に設置することでより用途が想像しやすくなるなど感じた
- 保護者の方も不要な洋服が活用してもらえらると喜ぶ声も大きくとても良い取り組みだと思いました。

設置場所を活かした地域・コミュニティへの波及

- 園が駅の前にあるということもあり、地域の方も参加してくださり、地域の方との交流の場にもなりました。ありがとうございました。
- 近所の方なども気にかけてきて声をかけてくれたりしたところ。

5-1-3. 参加者の意識変容と行動変化（定性評価）

◎保護者の自由回答より：「誰かに届くという実感」が効果をもたらすことがわかった

「単なる処分」ではなく、「再利用される」「誰かの役に立つ」という実感が、参加の意欲、環境意識の向上、そして信頼感の源泉となっている。

環境意識・倫理観の向上

- 日本特有の「もったいない」文化に沿っており、SDGsの推奨につながると感じた。「売るほどキレイではないけれど、捨てるのはちょっと」と言って持ってきてくださる方がいた。「誰かの役に立てる」という気持ちになれるのもフレーベル館さんという老舗企業が行っているからこそその信頼感が後押しになっていると思う。
- これが誰かの役に立つと思うと、リユースを気軽な気持ちでできる。
- 不要な物を捨てるのではなく、再利用することは、物を大事にしよう！という意識に繋がった。
- 古着を誰かの役に立てるかもしれないという意識を持ってもらえたと思います。服を大切に着ようという意識が高まったのではないかと思います。
- 使い道がわからない服の行き場が出来て良いと思った。
- 資源ごみとして廃棄してしまう衣類も再利用出来るのでとても良いと思う。

教育的な効果と親子の交流

- ご家庭で不要になった洋服を、成長を振り返りながら、子どもと一緒に回収ボックスに入れる姿がありました。
- 保護者の方との会話のきっかけになりました。子どもたちとリサイクルの話をする事ができてよかったです。
- 「なんだろうねこれ」の子どもの質問からものを大事にすることの大切さを話す良い機会にもなった。
- 子どもたちもSDGsという言葉を身近に感じられる良いきっかけになったと思います。
- 保護者と子どもとの回収ボックスについて会話が増えていたように感じます。
- 回収ボックスが子どもたちの手作りではっきり、意欲が湧くように感じる。

5. 事業の成果

■ 5-1. 使用済子ども服回収検証

5-1-1. 回収システムと啓発活動の有効性検証（定性評価）

5-1-2. 回収実績と環境負荷低減効果（定量評価）

5-1-3. 参加者の意識変容と行動変化（定性評価）

■ 5-2. 遊び場における着替えレンタル有効性検証

5-2-1. 遊び場における着替えレンタルの実証体験調査（定性評価）

5-2-2. 衣服の準備・管理に関する現況調査（補足調査）

5-2-1. 遊び場における着替えレンタルの実証体験調査（定性評価）

前項（5-1）では、使用済子ども服を効率的に「集める」ための回収システムについて検証を行った。本項では、回収後の子ども服をどのように「活かす」かに焦点を当て、その有効性を検証する。

■ 検証概要

異なるフィールドの遊び場（施設）におけるサービス提供を通じ、着替えレンタル利用実態の調査および現場需要の検証を実施した。

対象	遊び場（施設）で「しゅらみい」を体験された子どもたちの保護者
方法	1. 実際の遊び場におけるレンタル体験 2. 子ども服についてのアンケート調査（Googleフォーム）
期間	2025年8月13日～12月11日

■ 検証結果（重点項目）

検証項目（KPI）	目標	実績	達成率
有効性実証 （着替えレンタルの継続活用意向） 80%以上	80%	無料…90% 費用負担あり…81%	113%◎超過達成 101%◎超過達成

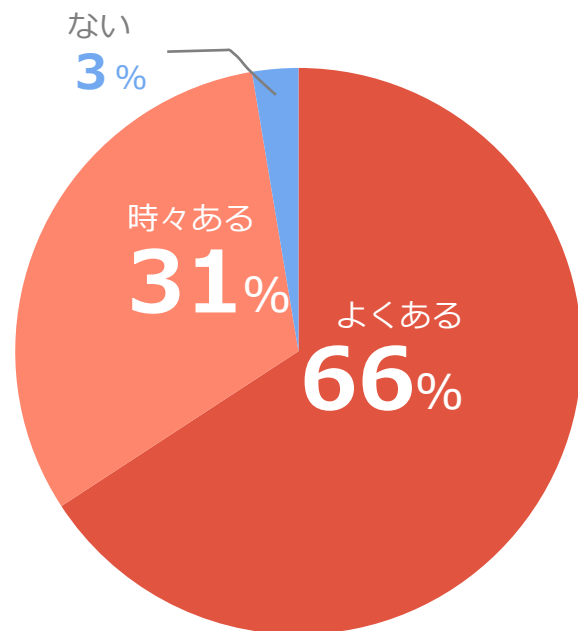
5-2-1. 遊び場における着替えレンタルの実証体験調査（定性評価）

	①滞在型・有料施設 牧場	②通過型・無料イベント 公園	③保育施設 親子イベント
場所	成田ゆめ牧場 (千葉県成田市)	都立府中の森公園 (東京都府中市)	認定こども園くるみこども園 (千葉県柏市)
実施日時	令和7年8月13日	令和7年11月16日	令和7年11月22日
活用機会	牧草ロールへのペイントイベント 「牧草ロールに絵をかこう」	アートワークショップイベント 「森とあそぼう」	土曜親子ふれあいイベント 「えのぐ満喫DAY」
対象	来場保護者 (回答者6名)	来場保護者 (回答者17名)	在園児保護者 (回答者15名)
検証内容	巨大キャンパスのペイント体験・その他牧場利用を通じたニーズ調査	自然素材工作・野外アートを通じたニーズ調査	保育施設で親と子が共同で制作を行う活動におけるニーズ調査

5-2-1. 遊び場における着替えレンタルの実証体験調査（定性評価）

Q. 着替えレンタルの継続活用意向

遊び場でお子様の服が汚れたり、着替えが必要になったりした経験はありますか？（単一選択）



遊び場：保護者（n=38名）

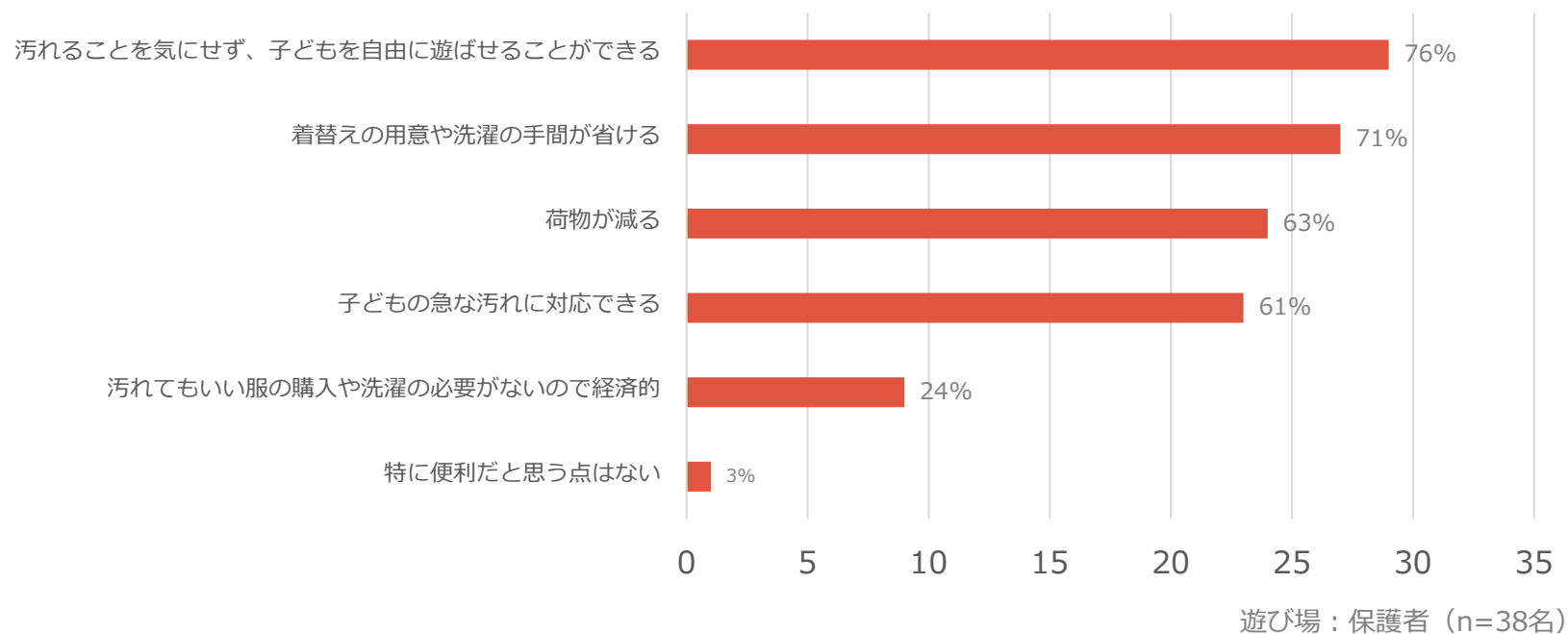
97% が
着替えの必要性を認識

「しゅらみい」はこの潜在的な負担を解消し、
汚れを気にせず成長に集中できる環境づくりのため
に極めて高い需要があることが見込まれる。

5-2-1. 遊び場における着替えレンタルの実証体験調査（定性評価）

Q. 着替えレンタルの利用メリット

レンタルサービスを利用した場合、どのような点が便利だと感じますか？（複数選択可）



保護者が本サービスに感じた価値は、単なる「着替え」以上に「精神的な解放」にあることが分かった。

5-2-1. 遊び場における着替えレンタルの有効性検証（定性評価）

Q. 着替えレンタルの利用メリット

【自由回答】抜粋

① 子どもたちの変化：「制限のない遊び」への没頭

子ども服汚れに対する大人の懸念が、無意識のうちに子どもの探究心にブレーキをかけていた事実が浮き彫りに。「しゅらみい」はそのブレーキを外し、子どもの非認知能力（主体性、意欲）を引き出す環境装置として機能した。

「汚れるから嫌だと言っていた遊びをやってくれた」

「信じられないくらい思いきり遊んでいました」

「普段買わない色や模様の服を借りたので、とても嬉しそうにしていた」

② 保護者の変化：「見守る余裕」の創出

アンケートの自由記述において、最も顕著だったのは「親の心理的余裕」。

本サービスが単なる子ども服の貸し出しではなく、「親子の肯定的なコミュニケーションの時間」を提供していることを証明。

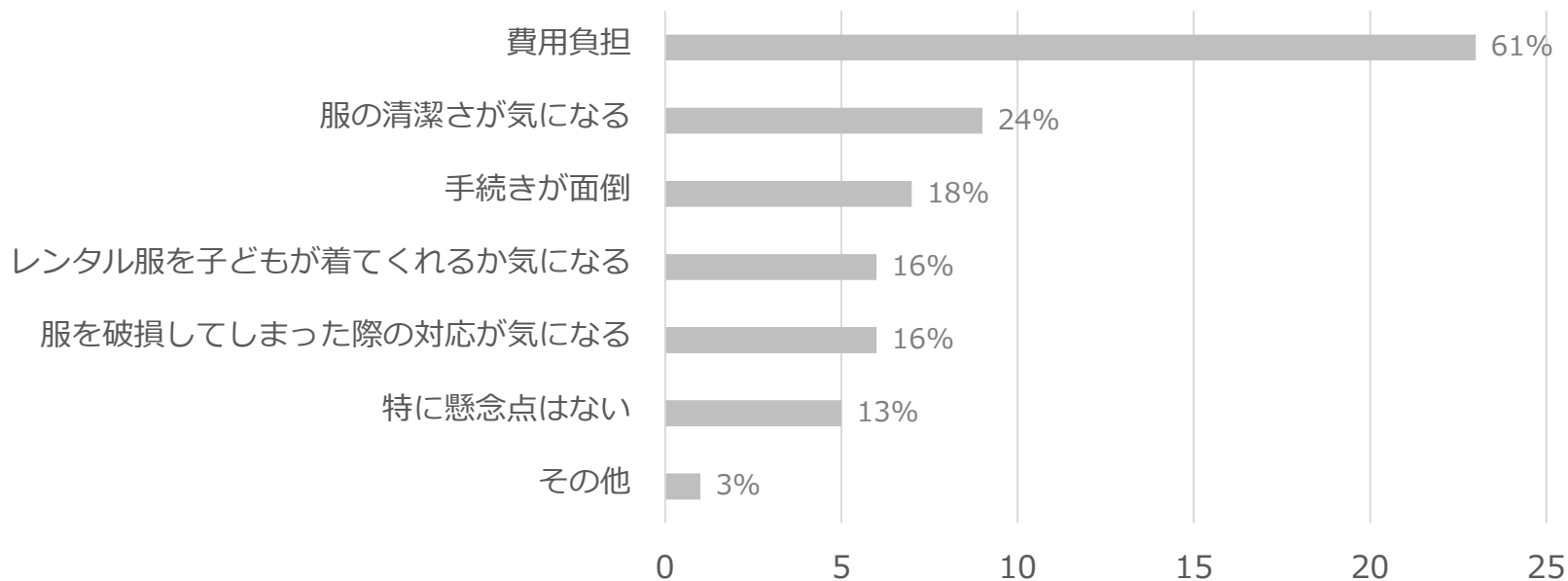
「ダメと言わなくて済むことが、親子の良好なコミュニケーションに繋がっています。」

「親側に余裕が生まれました！それにより、ダメだよなど言わなくてよかったです！」

5-2-1. 遊び場における着替えレンタルの実証体験調査（定性評価）

Q. 着替えレンタルの懸念点

レンタルサービスを利用した場合、どのような点が懸念点だと感じますか？（複数選択可）



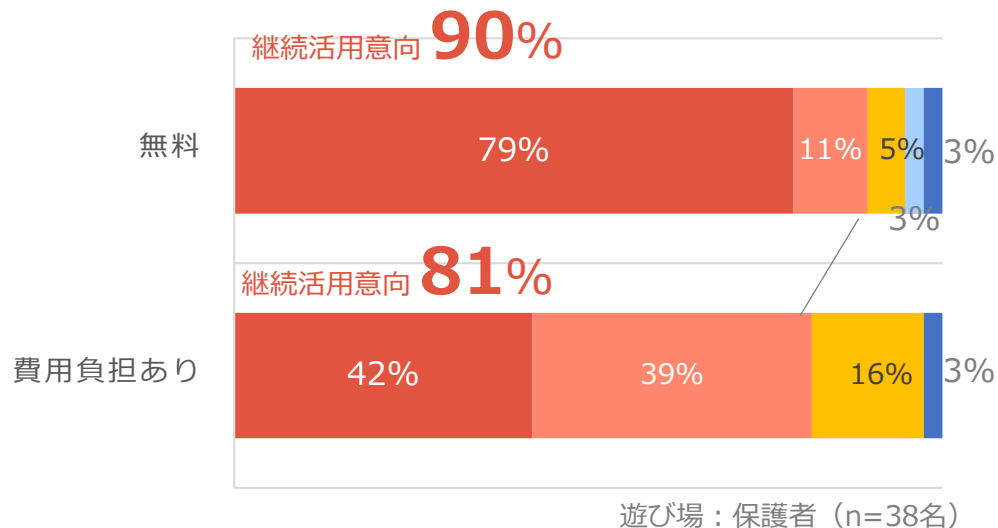
遊び場：保護者（n=38名）

利用における最大の懸念点は「費用負担（約6割）」、次いで「服の清潔さ」「手続きの手間」が挙げられた。

5-2-1. 遊び場における着替えレンタルの実証体験調査（定性評価）

Q. 着替えレンタルの継続活用意向

お子様が服が汚れる遊びをする際、「汚れても大丈夫な服」のレンタルサービスを園で利用してほしいと思いますか？（単一選択）



80% 以上の
高い継続活用意向を確認

無料の場合、「利用したい」「どちらかといえば利用したい」が約9割という極めて高い支持を獲得。

- 利用したい
- どちらかといえば利用したい
- どちらともいえない
- あまり利用したくない
- 利用したくない

5-2-1. 遊び場における着替えレンタルの実証体験調査（定性評価）

①滞在型・有料施設／成田ゆめ牧場

▼イベント告知ポスター

8/13 水 限定

牧草ロールに絵をかこう

牧場ならではの【牧草ロール】を使ったアート体験。
大きなロールをキャンパスに、自由にお絵かきしてみよう。
「お着替え無料レンタル(サイズ90-130cm)」があるから安心。
絵の具で顔が汚れることなんて気にしなくてOKです!

時間 午前の部 11:00~11:30 受付 午前午後ともに10:00~受付開始
午後の部 13:30~14:00 各回先着30名様

料金 無料(牧場入場料別途) 場所 エーカー広場テント下

持ち物 汚れても良い靴、服装* *90-130cmサイズの着替えは無料レンタルしていただけます

お洋服レンタルサービス

レンタル可能サイズ: 90cm~130cm

▼イベントの様子



【自由回答】原文・全掲載

「いっぱい汚しても、こどもにやさしくなれる。」

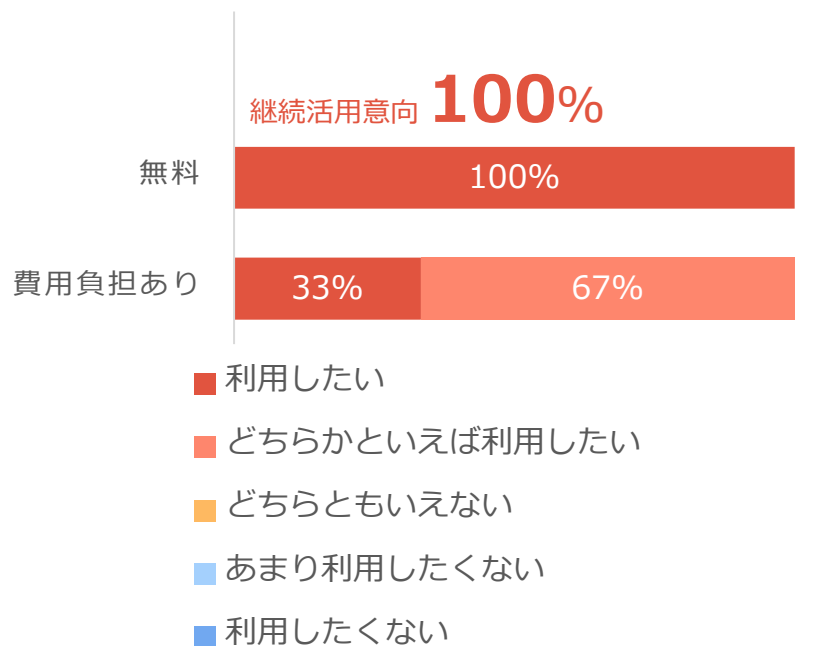
「気兼ねなくイベントに参加できました。」

「直後に絵の具を服にこぼしたので非常に助かりました」

5-2-1. 遊び場における着替えレンタルの実証体験調査（定性評価）

①滞在型・有料施設／成田ゆめ牧場

入場料が必要で、滞在時間が長いお出かけ先。ある程度「汚れる前提」で準備して来られていると想定される。



保護者 (n=6名)

1. 「イベント」が最大の利用動機に

当初は「一般利用」を想定していたが、実際はアートイベント等の突発的な汚れ対策としての需要が圧倒的。「汚れる準備」をしてきた客であっても、予想外のイベント参加時にはレンタルが必須となったため、満足度が高く、回答者全員が継続利用意向を示した。

2. 「動線の確保」「周知」が重要と判明

「遊び場」と「着替え場所」が離れていると、面倒さが勝り利用率が低下する。利用者の動線上に配置し、心理的・物理的ハードルを下げるのが不可欠。また、受付や場所の明示（看板・案内）が不足すると、潜在ニーズを取りこぼすことが分かった。

5-2-1. 遊び場における着替えレンタルの実証体験調査（定性評価）

②通過型・無料イベント／府中の森公園

▼イベント告知ポスター

参加費無料
雨天中止

2025.11.16 sun 10:00~14:00

木木とあそぼう

会場：府中の森公園 武蔵野の森と大きな広場

～つくて、あそんで森と一緒に人とつながろう～

予約不要。参加費無料。赤ちゃんから小学生まで親子で楽しめるイベントです。様々なジャンルのワークショップや、美味しい食事に飲み物、触って遊べる木のおもちゃなど、いろいろな人が参加できるブースを用意しました。森の美味しい空気を吸って思い切り遊んでリフレッシュしませんか？汚れても良い服装で、お気軽にご来場ください。

協賛団体：株式会社 社会福祉法人ゆたか会
主催：財団法人 府中の森公園協会
協賛企業：フレール様

アトラス 東京編（夏編）下巻 建築11巻
JPN中巻「武蔵野小野村、中央堂工芸」一巻（建築11巻）
中巻行幸「天神町二丁目」下巻 建築11巻（無料）
<https://www.atlaspark.jp/guide/feature/feature.html>

雨天降るとは目的の情報：
府中の森公園公式X（旧Twitter）
X@ParksFuchinomo
お電話03-3741-1168

出展：COCOROTUS | Laidon | 株式会社 府中の森公園協会

▼イベントの様子



5-2-1. 遊び場における着替えレンタルの実証体験調査（定性評価）

②通過型・無料イベント／府中の森公園

【自由回答】原文・全掲載

1. 子どもたち自身の遊び方や楽しさの変化に関して

- 汚れてもいいので楽しそうでした
- 汚れるから嫌だと言った遊びをやってくれた
- おもいきり遊べました
- 積極的に遊べたと思う
- 気兼ねなく汚れ遊びができて楽しかったようです。
- 絵の具が服に付くことを気にせず、色を混ぜたり色塗りを楽しんでいました。
- 普段買わない色や模様の服を借りたのでとても嬉しそうにしていました。汚れも気にせず思い切り遊んでいたと思います。

2. 保護者（親）の心理的・行動的な変化

- 子供は遊び方は変わらず、親が気にせず楽しい。制止しないのでより自由に楽しめた。
- 親側に余裕が生まれました！それにより、ダメだよなど言わなくてよかったと思います！

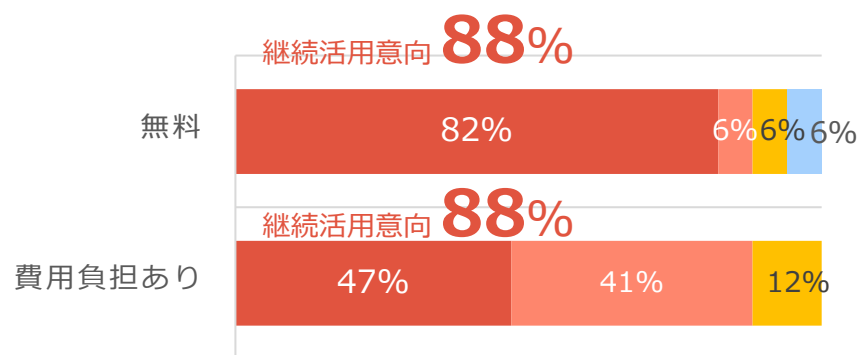
3. 今後の継続や運用に関する要望・提案

- 色々なイベントであると便利そう
- また参加したいと思います。春先の出掛けやすい時期にもまたあると嬉しい。
- 初めて利用しましたが、とてもありがたいサービスだと思います。着替えをうっかり忘れてしまったりする事もあるのでその場で借りられるのは本当に助かります。
- 汚れる前提ではなかったイベント会場で借りられたので、有り難かったです。
- 自分で申し込んで支払いをするレンタルサービスでしたら利用しないかもしれません。（日頃の生活でいっぱいなので、レンタルに費やす時間の余裕がありません。）

5-2-1. 遊び場における着替えレンタルの実証体験調査（定性評価）

②通過型・無料イベント／府中の森公園

公園へのふらっとした来訪者も含む、準備なしで参加ができるイベント。



- 利用したい
- どちらかといえば利用したい
- どちらともいえない
- あまり利用したくない
- 利用したくない

保護者 (n=17名)

1. 有料化への抵抗感は極めて低い

無料から有料に切り替えても、利用意向は88%という高水準を維持した（「どちらかといえば」を含む）。これは、サービス自体に高い価値が認められていることを示す。

2. 動線設計の成功

受付・着替え場所・イベント会場を近接させたことで、利用者が感じる物理的・心理的ハードルを大幅に下げた。また、更衣室で着替えるのではなく私服の上から被るだけ（特に120-130サイズ）という使い方が多発。この「圧倒的な簡便さ」が利用促進し、満足度を高めた。

5-2-1. 遊び場における着替えレンタルの実証体験調査（定性評価）

③保育施設・親子イベント／認定こども園くるみこども園



5-2-1. 遊び場における着替えレンタルの実証体験調査（定性評価）

③保育施設・親子イベント／認定こども園くるみこども園

【自由回答】原文・全掲載

1. 子どもたち自身の遊び方や楽しさの変化に関して

- 思いっきり汚せるイベントで親子で楽しめました！！
- 信じられないくらい思いきり遊んでいました。
- あまりかわらない
- 普段遊べないペンキ遊びを楽しんでた
- 大きい子ほど、親の汚れても何も気にしなくていいという気持ちを感じ取ってる気がしました
- たくさんある服の中から自分で着たい服を選ぶのが楽しそうでした

2. 保護者（親）の心理的・行動的な変化

- 汚れても良い服があるのはとても便利だと思います。今回子どもは着替えることが気分が乗らなかったなので利用しませんでした。そうなってもいいように汚れても良い格好で参加しましたが、着替えた荷物と洗濯の量がたくさんだったので、少し大変でした。ただ活動には子どもなりに楽しんでいたのでとても良かったです。

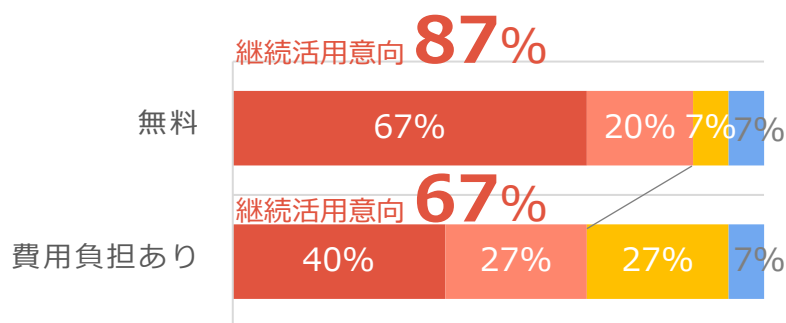
3. 今後の継続や運用に関する要望・提案

- 結局、肌着と下着も汚れてたので支払ってまで利用したいとは思わない
- 利用したいとは思わない。服の汚れも子どもの背景が見れて貴重だと思う。汚れるのが嫌な保護者は泥んこや絵の具で汚れやすい園に入園すべきじゃない。

5-2-1. 遊び場における着替えレンタルの実証体験調査（定性評価）

③保育施設・親子イベント／認定こども園くるみこども園

保護者満足を目的とした、園主催イベント。顔見知りの関係性の方々に参加する。



- 利用したい
- どちらかといえば利用したい
- どちらともいえない
- あまり利用したくない
- 利用したくない

保護者（n=15名）

1. 「安心」な環境であるゆえの需要の抑制

いつも通う保育施設で、保護者が見守ることができる環境であることが影響しているのか、「汚れを伴うイベント」への事前告知も行き届いており、利用意向が抑えられたと考えられる。

2. 心理的解放による「遊びの質」向上

親が汚れを許容することで、子供がペンキ遊び等に気兼ねなく没頭できた状況が報告された。

また、多くの服から「自分で選ぶ楽しさ」が、子供にとってのレクリエーションとなった。

5-2-1. 遊び場における着替えレンタルの実証体験調査（定性評価）

■着替えレンタルの利用実績

2箇所で、弊社スタッフ立ち合いの元実証を行い、施設の性質によって利用実績に差異が確認された。

項目	①滞在型・有料施設 牧場	②通過型・無料イベント 公園
場所	成田ゆめ牧場 (千葉県成田市)	都立府中の森公園 (東京都府中市)
利用実績	計39着 (イベント30着+その他9着) ※手配300着	計88着 (シャツ55着+ズボン33着) ※手配140着
需要特性	水遊びや動物接触エリアでの「日常利用」需要よりも、イベント参加利用の方が上回った。	イベント参加の「ついで利用」が多数。シャツのみの利用や、私服の上から着る需要が顕在化。
回収状況	返却率100% (紛失なし) エリアが限定的で管理しやすい。	返却漏れが計4着発生。オープンな会場のため、回収リスクへの対策が課題。

- ▶ 「汚れるエリア」または「イベント受付」の直近に配置することで、利用者の衝動的なニーズを逃さない動線を確保が必須。
- ▶ オープンな会場（公園等）では、返却ボックスの視認性を高めると共に返却時の声掛け等で未返却リスクを低減する必要がある。

5. 事業の成果

■ 5-1. 使用済子ども服回収検証

5-1-1. 回収システムと啓発活動の有効性検証（定性評価）

5-1-2. 回収実績と環境負荷低減効果（定量評価）

5-1-3. 参加者の意識変容と行動変化（定性評価）

■ 5-2. 遊び場における着替えレンタル有効性検証

5-2-1. 遊び場における着替えレンタルの実証体験調査（定性評価）

5-2-2. 衣服の準備・管理に関する現況調査（補足調査）

5-2-2. 衣服の準備・管理に関する現況調査（補足調査）

5-2-1の検証により、遊び場における着替えレンタルの高いニーズと需要（継続利用意向80%以上）が実証された。この結果をさらに深掘りし、「なぜ既存の譲渡や家庭での準備ではなく、『しゅらみい』によるレンタルが必要なのか」という問いに答えるため、5-2-2の現況調査を集計する。

■ 検証概要

対象	<ul style="list-style-type: none">・回収ボックス設置保育施設の保護者・（一部設問）回収ボックス設置遊び場の保護者
方法	<ul style="list-style-type: none">・ オンライン調査（Googleフォーム）・ （一部設問）シール投票（パネルボード）
期間	2025年8月13日～12月11日

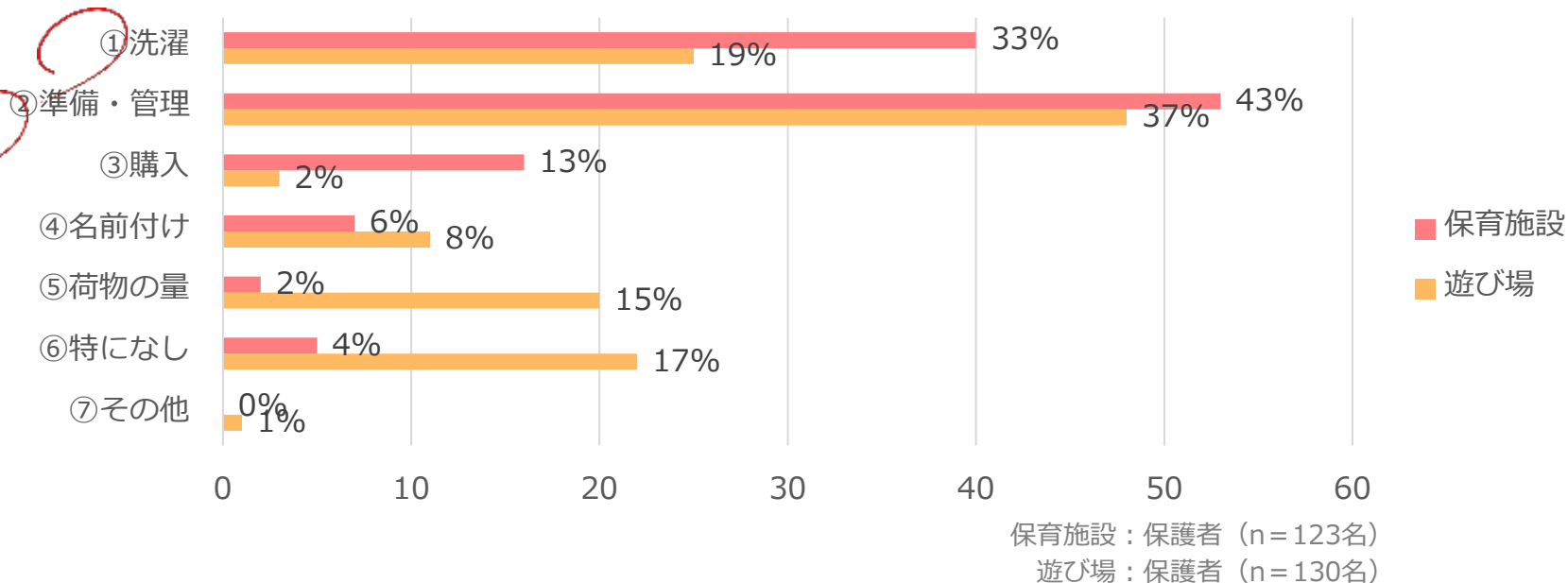
■ 検証結果：

着替えレンタルが、単なる着替えとしてではなく、「洗濯・準備という家事の代行」として機能することが確認された。

5-2-2. 衣服の準備・管理に関する現況調査（補足調査）

Q. 服について最も負担に感じていること

ふだんお子様の衣類について、もっとも負担に感じていることはなんですか？（単一選択）



最も負担に感じていることの上位は、調査場所（保育施設／遊び場）問わず、「準備・管理（サイズアウトした服の整理、季節ごとの入れ替えなど）」と「洗濯（泥汚れ、絵の具汚れなど、ひどい汚れへの対応）」だった。

保育施設利用者の約8割が「準備・管理（43%）」や「洗濯（33%）」を最大の負担としており、遊び場でも「荷物の量（15%）」が課題となっている。

着替えレンタルは、これら維持管理と持ち運びの負担を物理的に解消できるため、極めて高い導入ニーズがある。

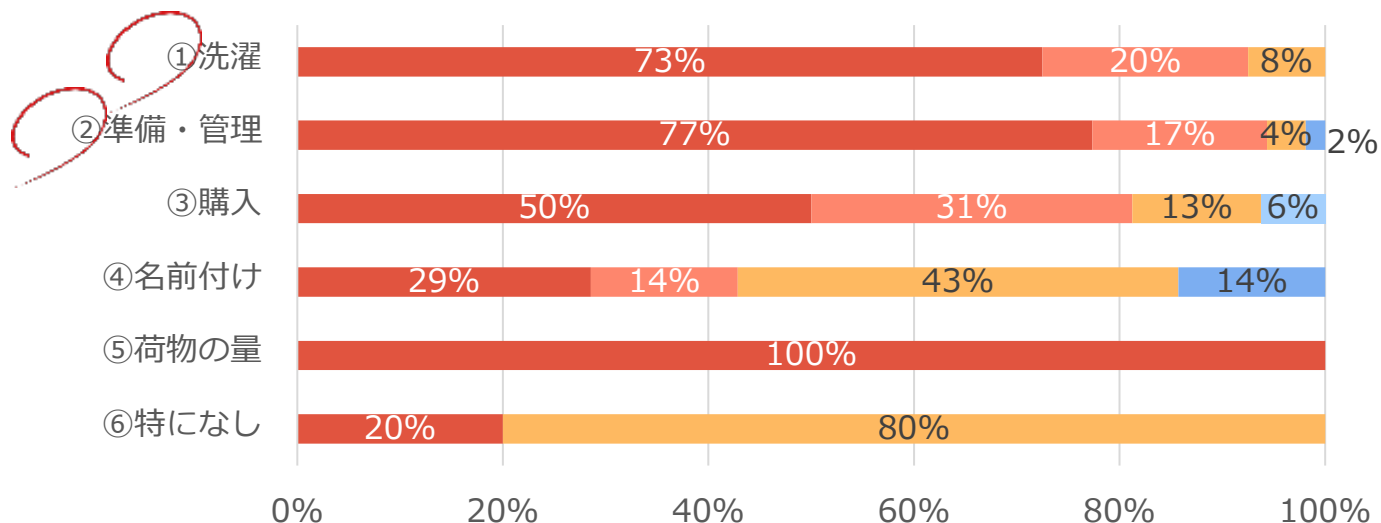
5-2-2. 衣服の準備・管理に関する現況調査（補足調査）

＼仕組みの有効性の検証／

Q. 服について最も負担に感じていること

×

Q. リユースへの継続参加意向



■ ぜひ参加したい ■ どちらかといえば参加したい ■ どちらともいえない ■ どちらかといえば参加したくない ■ 参加したくない

保育施設：保護者（n=123名）

「洗濯や準備が面倒」という親の最大の悩みを、レンタルという仕組みで解消できるか。

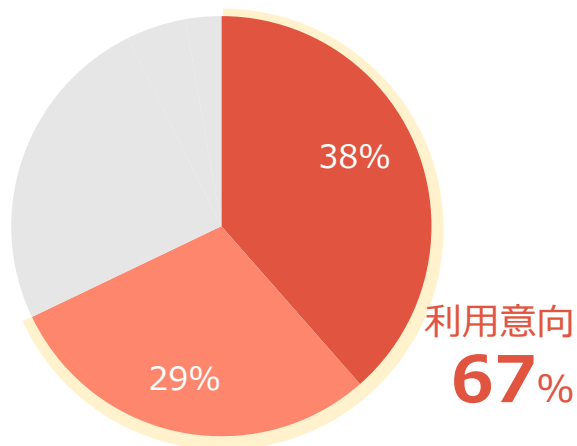
結果として、負担を感じる層の9割以上が継続を望んだことで、単なる古着の譲渡にはない「レンタルモデルならではの有効性」が証明されたといえる。

Q.ふだんお子様の衣類について、もっとも負担に感じていることはなんですか？ × Q.今後、このリユースの取り組みに参加したいと思いますか？

5-2-2. 衣服の準備・管理に関する現況調査（補足調査）

Q.着替えレンタルの需要

お子様が服が汚れる遊びをする際、「汚れても大丈夫な服」のレンタルサービスを園で利用してほしいと思いますか？（単一選択）



- 利用してほしい
- どちらかといえば利用してほしい
- どちらともいえない
- あまり利用してほしくない
- 利用してほしくない

保育施設：保護者（n=123名）

<利用意向が高い層の理由（自由回答・一部抜粋）>

1. 洗濯・家事の負担からの解放

最も切実なニーズであり、具体的なメリットとして最も強く支持されている。

「洗濯の手間が省けるから」「手洗いをしなくて済むため」

「泥が落ちないので、泥遊びの時はレンタル服にして欲しい」

2. 服の準備と金銭的な安心感

「汚れてもいい服」のストック確保や、購入・廃棄にかかるコストの負担軽減が期待されている。

「汚れてもいい服が常に自宅にあるわけではないから。」

「過剰な汚れの場合、破棄するしかなく購入が負担。」

「若干高い服を着せても安心です。」

3. 子どもの活動的な遊びの促進

保護者が汚れを気にすることで、子どもの遊びを制限せずに済むという心理的なメリットがある。

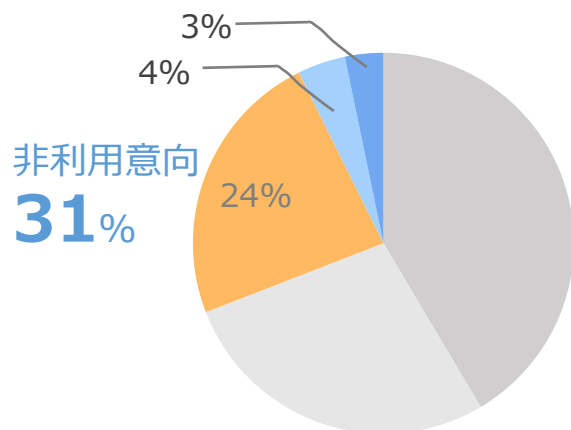
「汚れを気にせず思いっきり遊んで欲しいため」

「子ども自身、洋服が汚れることを気にするのでお借りできたら気にせず遊べる」

5-2-2. 衣服の準備・管理に関する現況調査（補足調査）

Q.着替えレンタルの需要

お子様が服が汚れる遊びをする際、「汚れても大丈夫な服」のレンタルサービスを園で利用してほしいと思いますか？（単一選択）



- 利用してほしい
- どちらかといえば利用してほしい
- どちらともいえない
- あまり利用してほしくない
- 利用してほしくない

<利用意向が低い層の理由（自由回答・一部抜粋）>

1. 金銭的な負担への懸念

「どちらともいえない」を含む消極的な意見の根幹は、費用が発生することへの警戒心である。

「利用料を負担するくらいなら、自分で購入・洗濯するほうが良いと考える」「プラスアルファでお金がかかるため、利用したくない。」

2. 服の衛生面・品質と代替手段の存在

レンタル服の衛生面への懸念や、自分で用意できるため必要性を感じないという意見が見られる。

「誰が何人着たかわからないものを着せたくない。」

3. 個人の楽しみや価値観との不一致

サービス利用を好まない個人的な理由や価値観が存在する。

「季節やその日の気分に合わせて、子どもと一緒に服を選ぶ楽しみがある。」「たくさん汚した服を見るのも楽しみの一つだ。」

保育施設：保護者（n=123名）

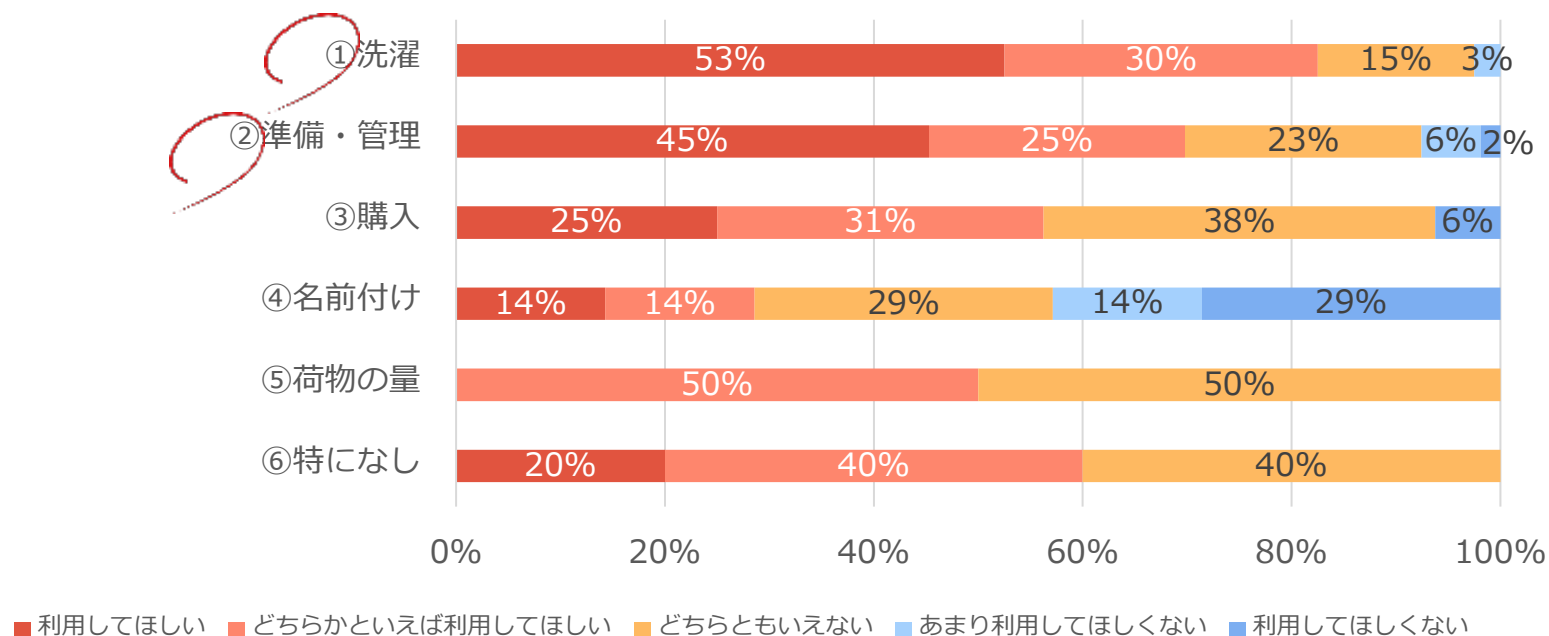
5-2-2. 衣服の準備・管理に関する現況調査（補足調査）

＼サービス自体の需要の検証／

Q. 服について最も負担に感じていること

×

Q. 着替えレンタルの需要



保育施設：保護者（n=123名）

「洗濯」や「準備・管理」の負担を感じる層に需要が集中していることから、本サービスは「単なる衣類提供」ではなく「家事負担の解消手段」として強く求められていることがわかる。

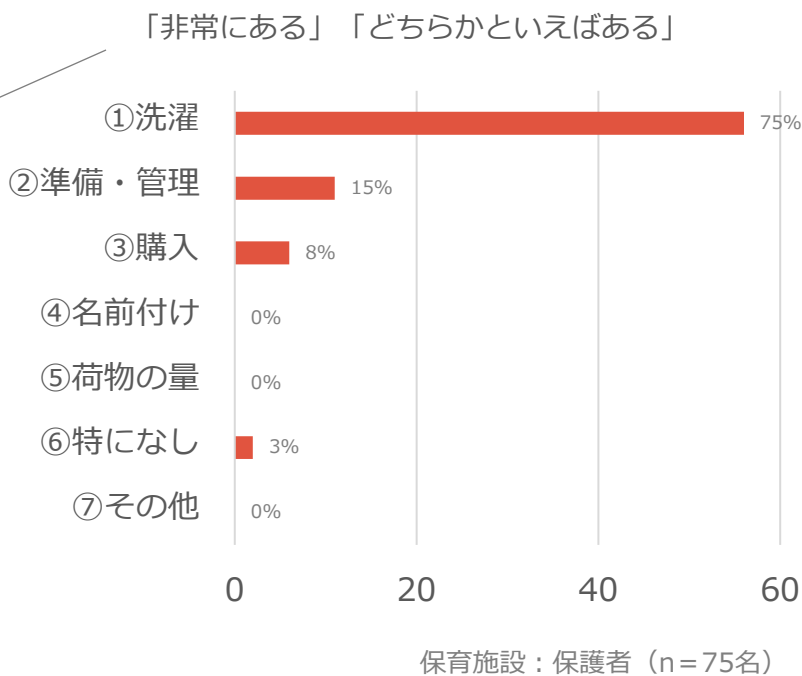
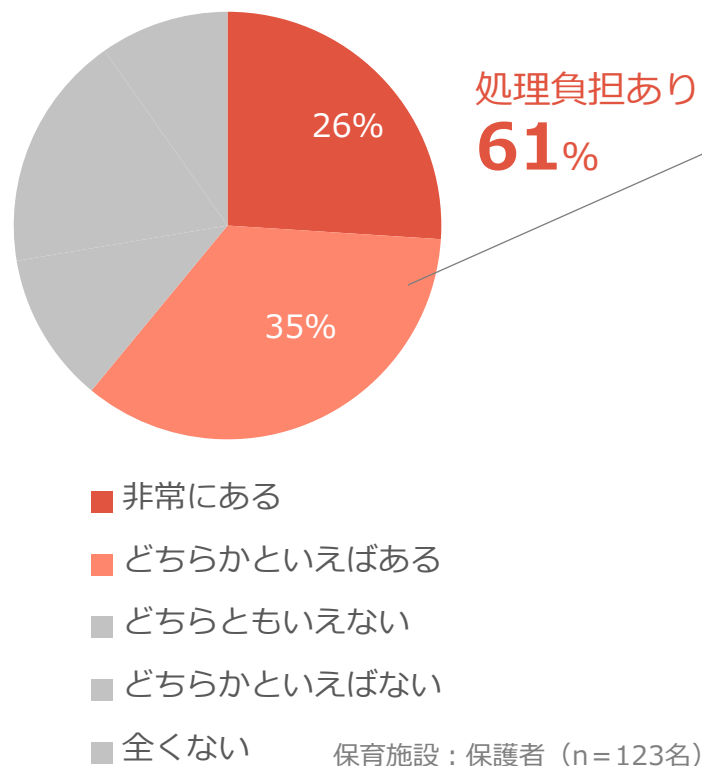
日常の困りごとに直結した利便性が、サービスとしての確かなニーズを生んでいると言える。

Q.ふだんお子様の衣類について、もっとも負担に感じていることはなんですか？ × Q. レンタルサービスを園で利用してほしいと思いますか？

5-2-2. 衣服の準備・管理に関する現況調査（補足調査）

Q. 「汚れてもいい服」の処理負担

「汚れてもいい服」の準備や後処理に対して、負担感はありますか？
(単一選択)

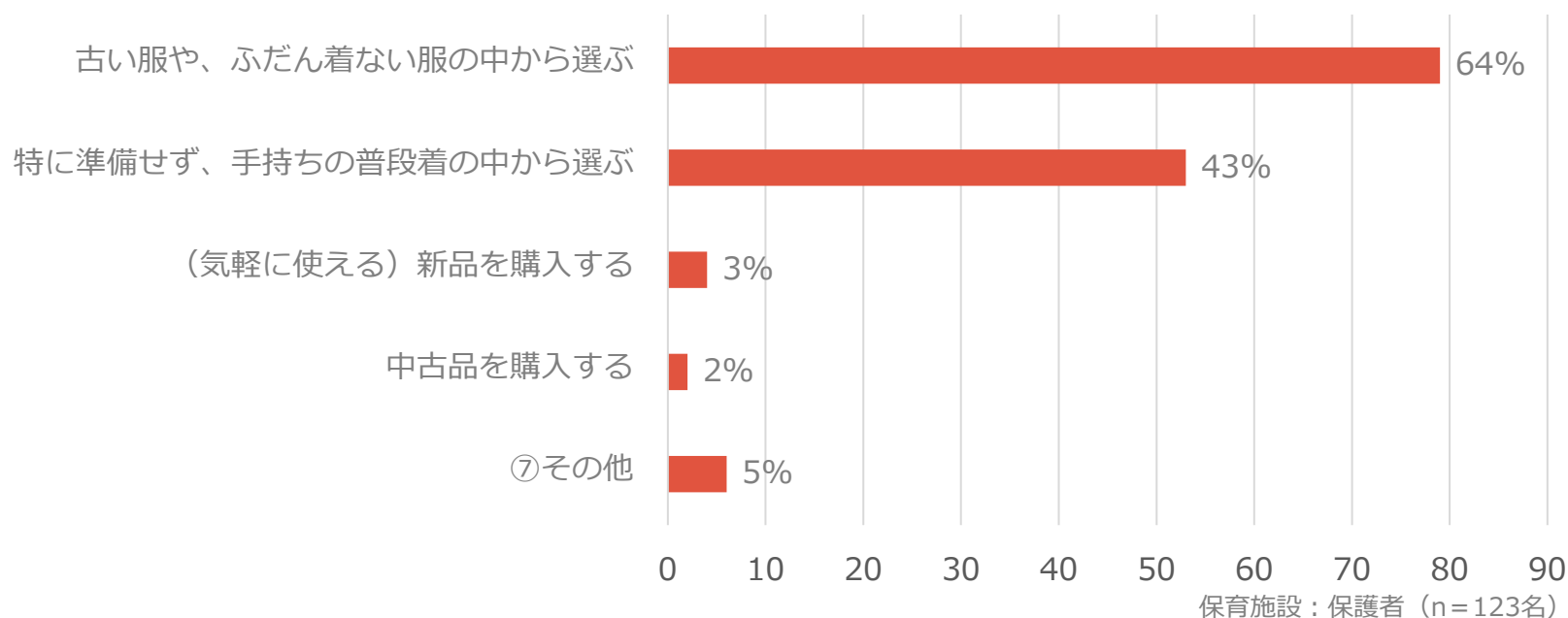


「汚れてもいい服」の処理において、「洗濯」や「準備・管理」の負担が突出している事実は、保護者が最も解決したい課題を浮き彫りにした。着替えレンタルはこの負担を直接肩代わりが可能であり、保護者の「心理的・時間的ハードル」を劇的に下げる解決策として極めて有効である。

5-2-2. 衣服の準備・管理に関する現況調査（補足調査）

Q. 「汚れてもいい服」の準備方法

保育施設より、「汚れてもいい服で来てください」と案内があったとき、汚れても構わない服はどのように準備されますか？特に近いものを選びください。（複数選択可）

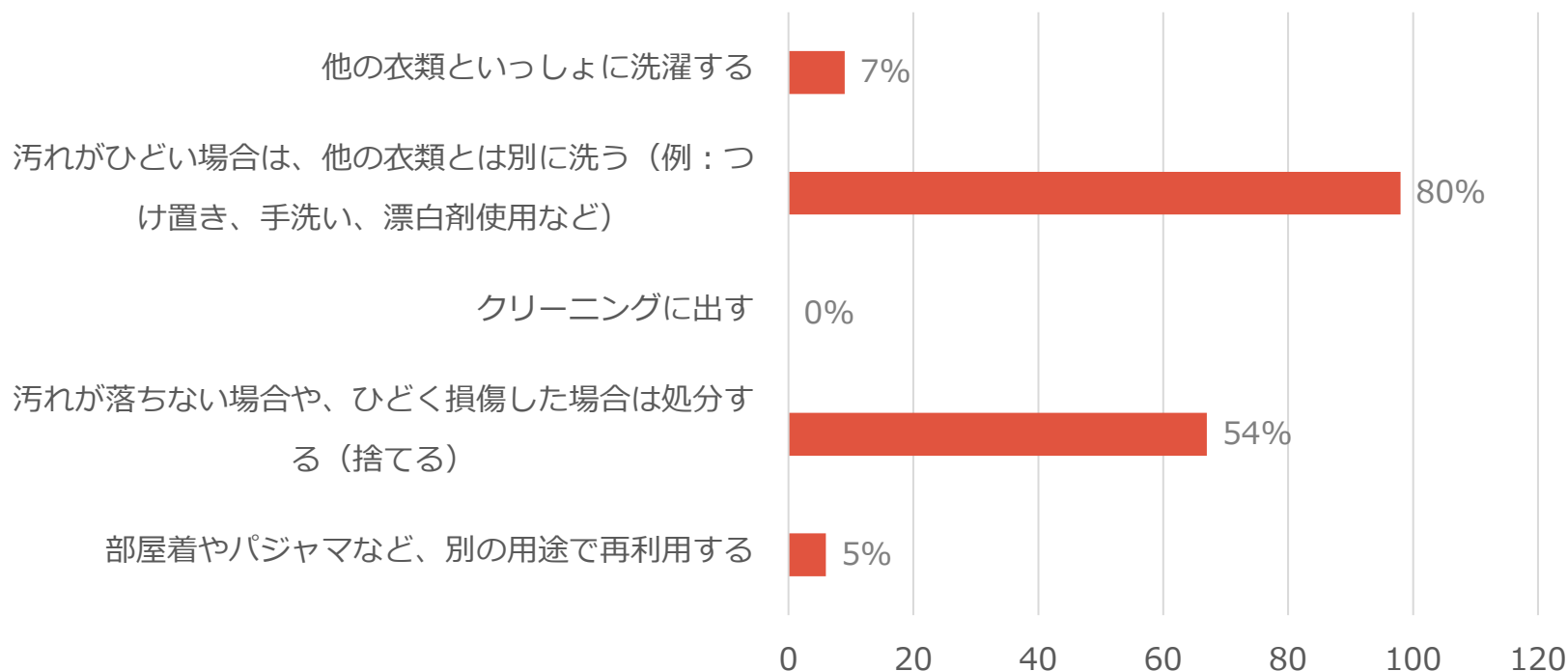


多くの保護者が、「汚れてもいい服」の対応として「古い服や普段着ない服」を充てることで対応している実態が浮き彫りに。汚れへの懸念が確認できた。

5-2-2. 衣服の準備・管理に関する現況調査（補足調査）

Q. 「汚れた服」の処理方法

汚れてしまった服は、そのあとどのように処理していますか？特に近いものをお選びください。（複数回答可）



保育施設：保護者（n=123名）

「汚れがひどい場合は、他の衣類とは別に洗う」が最も多く選択されており、多くの保護者が汚れた服に対して手間をかけていることが分かった。「汚れが落ちない場合や、ひどく損傷した場合は処分する（捨てる）」という回答も半数以上を占めていた。

5-2-2. 衣服の準備・管理に関する現況調査（補足調査）

Q. 「汚れた服」の処理方法

汚れてしまった服の処理に関して、特に困っていることや、こうなったら良いのと思うことがあれば、自由にご記入くださいませ。

分類	意見の概要	「しゅらみい」への示唆
洗濯・処理の手間 (最も多い懸念)	予洗いが非常に手間で、石鹼で予洗いしないと いけない。／泥汚れを落とすのに20～30分か かる。／汚れがなかなか落ちない、何度もす すぐ必要がある。／排水溝が泥まみれになる、 砂を落とすのが大変。	「しゅらみい」の（保育施設が） 「予洗いなしで返却OK」という機能 が、保護者の最大の負担を直接的に 解消する決定的なメリットとなる。
サービスの要望	有料でもいいので園で準備してほしい。／ク リーニングしてくれるサービスがあったら嬉し い。／園内着として保育園側で洗濯して使っ てくれればいいのに。	「しゅらみい」（プロのクリーン グ店が洗濯・管理を請け負うレンタ ルサービス）は、まさにこれらの潜 在的なニーズに応えるソリューション である。
廃棄・思い出	園で廃棄（雑巾とかで再利用）や持ち帰りが選 択できたら良い。／汚れた服は思い出がある が捨てづらい。	「しゅらみい」は、回収した服を 「汚れても大丈夫な冒険服」として 次世代へ繋ぐことで、「捨てる」と いう選択肢を減らし、リユース（共 有）という新たな価値を提供する。

5. 事業の成果

■ 検証結果（総括）

検証項目（KPI）	当初目標	調整後目標	実績	達成率
回収拠点数	13箇所	-	15箇所	115% ◎ 超過達成
回収量	6,000点	2,600点	4,614点	177% ◎ 超過達成
CO2排出量削減効果	約779 kg-CO2 総回収量 443.7kg × 合成繊維率 63.6% × 排出係数 2.76			

検証項目（KPI）	目標	実績	達成率
リユース意識の向上 (リユースへの継続参加意向) 80%以上	80%	90%	113%◎ 超過達成
有効性実証 (着替えレンタルの継続活用意向) 80%以上	80%	無料…90% 費用負担あり…81%	113%◎ 超過達成 101%◎ 超過達成

全項目
達成!

事業継続ロードマップの策定については、効率的な回収ルート of 精査や関東圏・他施設への展開案の具体化に検討の余地を残したが、策定に不可欠な実証データおよび展開モデルの基礎材料の収集を完遂した。

6. 今後の検討課題

しゅらみい社会実装に向けたアップデート^①

調査の結果、保護者の子ども服への強い愛着も確認された。

今後は単なる環境負荷低減の訴求に留まらず、保護者に寄り添うリユースの在り方が求められる。

こども家庭庁が掲げる「安心と挑戦の循環」に基づき、リユースの実績に加え、「汚れを気にせず遊びに没頭できる安心が、子どもの挑戦意欲と自己肯定感を育む」という本質的価値を継続的に発信していく必要がある。



回収効率の最適化^②

投入段階でのサイズ分けの徹底が困難であり、手作業による仕分け工数が膨大になった。特に表記が統一されていない外資系ブランド等の選別に手間取った。

▶回収協力者の負担を抑えつつ、運用側が即座にリユースに回せる「質の高い回収フロー」の構築が不可欠である。

また、現在の回収品は幼児向けサイズ（110～140）が約20%に留まっている。

▶ニーズの高いサイズを重点的に集めるため、新規回収チャネルの開拓が急務である。



(出所) こども家庭庁「はじめの100か月の育ちビジョン」（幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン）

URL: <https://www.cfa.go.jp/policies/kodomo-sodachi/>（最終閲覧：2025年12月19日）

5-1-3. 参加者の意識変容と行動変化（定性評価）

回収ボックスの最適化

1. ボックスの仕様・構造・設置に関する課題

- サイズ・適正化の要望：施設の規模（利用家庭数や回収頻度）に応じて、ボックスの大きさが選べるようにしたいという要望がある。（小さすぎず、大きすぎない適切なサイズ）
- 内部構造の不安定さ：回収物の量が増えた際、ボックス内に設置したビニール袋の固定が外れてしまうため、固定方法の改善が必要。
- 安全性・誤投入防止：0歳児などの子どもの手が届かない位置に入れ口を設けるなど、設置場所や構造に誤投入を防ぐための配慮が必要。
- 構造的な疑問：ボックス下部の穴からの埃の侵入や、満量時の中身のはみ出しがないかといった構造的な懸念がある。

2. 運用手順・物的サポートに関する課題回収用袋の提供

- 施設側として、ボックス内部に設置する専用の袋（ライナー）を設け、回収作業の簡便化を図りたい。
- 利用者側として、回収用の丈夫な袋（ビニール袋以外）の提供を望む声がある。
- 混入の懸念：回収対象外の子ども服（例：園児の私物）と混ざらないよう、管理・識別への注意が必要。

3. 利用者への周知・期間に関する課題

- 運用期間の短さ：より長期的な設置ができれば、回収がより進むと見込まれる（定期的な継続の要望あり）。
- 利用者への周知不足：施設側として、取り組みの利用者への周知が十分にできなかった点が反省点として挙げられている。
- 情報提供の充実：回収している服のサイズやデザインなど、利用者からの具体的な質問に対応できるよう、リーフレットや掲示物での情報提供の充実が求められる。

7. 事業終了後の展開

本事業の結果、回収した子ども服のリユース先として「しゅらみい」が高いポテンシャルを持つことが明らかになった。同時に、「着用可能な子ども服の大量排出」という深刻な課題を現場で再認識した。この喫緊の課題に対し、以下の指針に基づき事業を推進することが、弊社の重大な使命であると考え。まずは、弊社の現行のリユーススキームの核となる「しゅらみい」の推進を図ることが重要。

リユースの可能性を深める



1. 回収先・リユース先の拡大検討

● 「しゅらみい」の市場浸透

引き続き関東圏を軸とし、子どもの活動支援に特化したリユースプラットフォームとして、その浸透に注力する。



2. 子ども向けアートプログラムの企画

本企画ではしゅらみいの利用促進を目的とし、子どもの創造性を育むアート活動プログラムを策定する。具体的には、絵の具等による汚れを伴うワークショップを設計し、汚れを気にせず着用できるリユース子ども服の新たな活用シーンを創出する。この「汚れる活動」と「リユース子ども服」の親和性を活かし、保育者の心理的ハードルを払拭することで、新たな価値提案を行う。本企画を通じて、アート体験とリユース活動を一体化させ、実体験に基づく循環型社会への理解深化と「しゅらみい」の継続的な利用拡大を狙う。

成果を広げる（チャレンジ）



1. 環境貢献の「見える化」による継続的な参加促進

本事業にご協力いただいた回収拠点に、回収実績をCO₂削減効果等の定量的データとして可視化する施設別ポスターを作成し、提供する。施設による広報活動を推奨し、保護者への貢献報告を通じて、今後の「子ども服を大切に循環させる」アクションの継続的な動機づけとする。



2. 耐久性の定量的な検証

実際に「しゅらみい」でリユースされる使用済子ども服について、「耐洗回数」の限界を定量的に測定し、その耐久性を明確に把握する。

7. 事業終了後の展開

2. 耐久性の定量的な検証

事業終了後も継続して「しゅらみい」にてリユースする子ども服の耐洗回数検証を実施計画中。以下のステップに基づき、実証を進める。

①検証手順

本検証では、以下の手順で計10着の検証対象を管理・記録します。

①対象の識別:

計10着の検証対象子ども服を選定する。

個体識別のため、各衣類に専用のワッペン（A～J）を刺繍する。

②手配・使用情報の記録:

検証対象が手配された都度、【手配先】と【使用予定内容（わかる範囲で）】を記録する。手洗いなどの特殊な洗濯を実施した場合は、その旨を備考欄へ必ず記録する。使用および洗濯の回数を、専用の記録シートと電子データで記録・管理し、関係者間で共有する。

③耐用限界の確認と記録（リユース不可判定時）:

写真撮影を実施し、耐用限界となった箇所の詳細な記録を残す。廃棄は行わず、リサイクルスキームに移行予定。

②検証スケジュール

検証は、実運用に基づいた長期的なデータ蓄積が必要であるため、2026年～対象子ども服のトラッキングを開始。

リユース効率の季節変動（半袖シーズンの需要が高い見込み）も考慮し、継続的にモニタリングを実施予定。

▼各子ども服に識別用のワッペンを刺繍



7. 事業終了後の展開

③検証条件

使用感

- ①使用感が低いもの（A長袖、F半袖）
- ②使用感が高いもの（ほつれ、目立つ毛玉など消耗が確認できるもの）（B長袖、G半袖）



汚れの目立ちやすさ

- ③汚れが目立ちにくい色柄（C長袖、H半袖）
- ④汚れが目立つため、手洗い回数が多くなりそうなもの（D長袖、I半袖）



素材

- ⑤標準的ではない素材（夏…綿ではないポリエステル／冬…スウェットではない綿のシャツ）（E長袖、J長袖）



8. 横展開へのポイント

実行性の高い回収スキームの構築

■作業リソースの標準化と最適化：

約150kgの選別・集計作業において、計4名（最終1時間は5名）で4時間を要した（合計約17人工時間）。無理のない人員配置と作業工程を事前に計画することが、安定運用の鍵となる。

■リユース精度を向上させるターゲット設定：

回収量のみを追わず、特定の目的（例：着替えレンタル）に合致した質の高い衣類を集めるためには、回収段階での厳格なルール設定が有効。ターゲット層を絞り込み、ニーズに直結するサイズや品目を重点的に呼びかけることで選別コストを大幅に抑制できる。

「リユースの見える化」による参加意欲の醸成

本事業が、提供された子ども服が「しゅらみい」として次世代の子どもの「挑戦」を支えるためにリユースされることを具体的に明示したように、リユース先を透明化することで、提供者の心理的ハードルを下げ、社会貢献への実感を伴う継続的な参加を促すことが可能となると考えられる。

専門事業者との連携による循環の完遂

本事業の資源循環を支える上で、リユース・リサイクルの土壌・専門知識を有するゼンドラ株式会社との連携は不可欠であった。リユースに適さない子ども服の再資源化ルートまで含めた「資源循環率100%」を目指す出口戦略において、同社の知見と協力を深く感謝するとともに、こうした専門事業者との強いパートナーシップを標準パッケージ化することが、他地域への円滑な展開において極めて重要である。

「しゅらみい」の子ども服リユースがつなく、自由な遊びと健やかな循環

▼「しゅらみい」の宣材物に込めたメッセージ



いきおいよく塗られた色のはしに虹を描く
どの色も、どんな線も、きみの思うまま
どこまで世界が広がるのか、楽しみにしているよ
ずっと自由に描き続けられるように
ここで見守っているから

本事業では使用済子ども服の回収において、生活動線上に拠点を設けることでハードルを下げ、「しゅらみい」への納得感ある協力が参加者に新たな価値をもたらすという一定の効果が得られた。

特筆すべきは、「回収」の先にある「しゅらみい」の存在が子どもと大人・双方の心のブレーキを外すことである。

当初は汚れを気にしていたが吹っ切れたように遊び回る姿や、自ら服を選び感情を豊かに表出する子どもたちの変化。そしてそれをあたたかく見守る大人の背中。

これらは現状、すべてを数値として捉えきれものではない。

しかし「しゅらみい」が架け橋となるリユースの輪は、単なる子ども服の再利用ではなく、大人と子どもに「安心」と「自由」を届け、無限の可能性を引き出すための仕組みであるといえる。本事業が、その未来を支え続ける確かな足がかりとなることを期待する。



【お問い合わせ先】 フレーベル館 しゅらみい窓口 : 03-5395-6611 / shuramii-support@froebel-kan.co.jp